

朝里叢書 第九卷 朝里村史 朝里外三村沿革史

# 朝里村史

朝里村史 朝里外三村沿革史

鶴谷和三郎 著

小樽・朝里まちづくりの会 朝里遺産部会

朝里叢書第九卷 「朝里外三村沿革史 朝里村史」について

本書は、旧熊碓村在住、故鶴谷和三郎氏による、「朝里外三村沿革史、朝里村史」である。成立時期は表紙記載内容から「明治三十八年壹月元旦以降」と考えられる。刊行されたものではなく、項目題名のみで記述のない部分や表もあり、未完の原稿と思われる。この頃までに刊行された「北海道志」「小樽港史」等の影響も垣間みられる。現在小樽市総合博物館に所蔵されている。昭和五十年代に新光在住の横川幸作氏により筆写されていたが、その原本の所在は不明であった。札幌在住の氏の子孫の方から平成二十年に小樽市博物館に預託されていたことが、平成二十一年春に判明し、翻刻にいたった。鶴谷和三郎氏の経歴に関しては不明である。

朝里村史については他に「朝里村史」（朝里叢書第八巻）があり、朝里村役場において大正五年十月に編纂され、東京帝國大学文学部史料編纂掛へ献本され、保存された。現在小樽市朝里界隈は勿論、北海道立図書館、小樽市図書館でも現存せず、故横川幸作氏が東京大学より複写して取寄せたものが、郷土史家、守谷明宏氏の元に保存されている。特徴としては大正元年から同四年迄の各種統計が記載されている。人口戸数統計、土地利用、出生死亡、その死因、村での農水産物の内容、国内各地からの移入物産等が記述されており、時代の実態が読み取れる。

平成二十二年四月

小樽・朝里まちづくりの会 朝里遺産部会を代表して

末永 通

## 記述に関して

本書は下書き原稿と考えられる、項目のみの記載や一部の文章は線で消されているが、著者の推敲の流れが解るため、あえてそのまま記載した。

翻刻に際して註を施したが、青色で区別している。

一部のよみがなは直後に括弧に入れて記載した。

西暦年号は参考のために記載した。

亦、記載には誤字があると思われるが、註を付した。また鶴谷氏の出身地の発音の影響か「シ」と「ス」の混用も見られる。

目次

旧朝里村略図	一四
著者による記載項目	一六
位置及境界	一七
地勢	一七
山岳	一七
鑛物鑛泉	一七
水系	一七
氣候	一七
面積	一七
水産物	一七
陸産物	一八
朝里村戸口表	一九
風ノ名稱ニ就而	二〇
風俗	二〇
習慣	二〇
右器時代	二〇
アイヌ人種	二三
アイヌ人中表	二三

(項目のみで記載のないものは——で示した)

創業時代	二四
藩臣ノ領土及請負人及其ノ年期	二五
移民制度	二六
漁業税	二六
漁業制度	二六
アイヌノ使役	二七
アイヌ移轉及出稼	二八
アイヌノ勞動賃	二八
和人ノ入稼	二八
漁網	二九
商業	二九
カムイコタンノ崩壊	二九
地震及津波	二九
神社(張碓)	三〇
佛寺	三〇
小樽郡ノ沿革	三一
漁場ノ創開	三一
初期幕政時代	三二
幕府ノ政策	三二
請負人	三三
小樽港ノ狀況	三三

朝里村鱒収獲高表	
當時ノ漁業家	三八
漁業	三七
漁網改良	二
道路	三七
土地ノ名稱	三七
請負人	三六
移住制度	三六
勤番所	三六
兵備	三六
鱒収獲高	三五
神社	三五
建網使用ノ禁	三五
筥網	三四
漁網ノ改良	一
運上金其他	三四
漁場ノ新開	三四
時代ノ性質	三四
松前藩政時代	三四
神社表	三三

第二期幕政時代

温泉

寺小屋

農業

商業

長崎俵物

漁業

寺院

幕府ノ政權奉還

明治時代

開拓使ノ設置

維新革命ノ餘波

兵部省

行政事務

埠頭

道路

陸運

郵便

教育

町村ノ事務

地租及地價

戸長役場

總代人

三八

三九

三九

三九

三九

四〇

四〇

四〇

四一

四一

四二

四二

四二

四三

四三

四三

四四

四五

移民	四四
浦役場	四五
土地所有權	四六
貸與米	四六
漁業ノ保護及漁業稅	四七
郵便	四七
住吉神社ノ發立	四七
小樽市街	四七
劇場	四八
大雪及出水	四八
アイヌノ滅亡	四八
時代ノ性質	四八
鐵道開通時代	
郡役所	四九
戸長役場	四九
警察署	四九
廢使置縣	四九
移民	五〇
廢縣置廳	五〇
土地ノ租稅	五〇
鐵道關係	五〇

停車場	五二
北有社	五二
北海道炭鈦會社	五二
漁業資本金	五二
漁業ニ関スル會社	五三
水産品評會	五三
漁業組合	五三
漁業	五四
水産税ノ輕減	五四
小樽港灣ノ區域	五五
準備米	五五
鑛山	五六
鑛泉	五六
道路其ノ他	五六
商況	五六
談話會	五六
農業及耕地反別年別表	五六
植樹	五六
熊確學校沿革史	五七
朝里小學校沿革誌	五七
教育	六〇
虎列刺病	六〇

火災	六〇
郵便（朝里）	六〇
寺院	六一
御巡幸	六一
水産物	六一
行政官廳	六二
水産物ニ関スル會社	六二
水産奨勵會	六二
漁業規則	六二
病院	六三
發達時代	六三
漁業組合	六三
精米所	六三
農業	六四
小樽郡朝里村耕地反別年別表	六四
發達時代	六四
土地、水面及移民ニ関スル規則	六五
鑛山	六五
金融機關	六五
出水	六五
植樹及苗圃	六五

教育

衛生

火災

海水浴

水難救場會

消防組

漁業

自治制時代

保護時代ニ於ケル自治ノ端緒

自治制ヲ布ク

村會及議員

部長倍長

教育及ビ學事ニ關スル事柄

寺院

道路

熊碓村隨道

由露戰役ニ於ケル名譽ノ死傷者

熊碓村

朝里村

張碓村

錢函村

漁業  
夜學舍  
愛國婦人會  
青年會  
明治三十二年ヨリ三十九年迄ノ村況  
停車場（張碓）  
農業

六八

第壹號

明治三十八年壹月元旦以降

原稿第壹號

朝里外三村沿革史

# 朝里村史

著者

鶴谷和三郎

# 山紫明媚

上編

神社、神社表 朝里村ノ沿革 漁場ノ創開 天明年間ノ朝里村 天明年間ノ朝里村ノ概況表

幕政時代 自 文化四年 至 文政四年 拾五ヶ年間

幕府ノ政策 小樽港ノ狀況 請負人 神社表

松前藩政時代 自 文政四年 至 安政二年 三十五年間

時代ノ性質 漁場ノ新開 運上金其ノ他 鮭收穫高表 漁網ノ改良 笊網 建網使用ノ禁 神社及

神社表

第二期幕政時代 自 安政二年 至 明治元年 拾三年間

兵備 勸番所 移住制度 請負人 土地ノ名稱 名主濱 名主 道路 漁網ノ改良 漁業及ビ當時

ノ漁業家 朝里鮭收穫高表 長崎俵物 商業 農業 温泉 寺子屋時代 寺院 墓地 寺院表 幕

府ノ政權奉還

下編

保護時代 自 明治元年 至 明治十三年 十二ヶ年間

開拓使ノ設置 維新革命ノ餘波 兵部省 行政事務 警察事務 町村ノ事務 戸長役場 總代人

浦役場

移民 地租及地價 土地所有權 貸與米 漁業保護及漁業税 埠頭 道路 陸運 郵便 教育

住吉神社ノ起因 小樽市街 大雪及出水 アイヌハ滅亡

鐵道開發時代 自 明治十三年 至 明治二十四年 十一ヶ年間

時代ノ性質 郡役所 戸長役場 警察署 廢使置縣 廢縣置廳 移民 土地ノ租税 鐵道ノ開通

停車場 北有社 北海道炭礦鐵道會社 漁業 漁業資本金 水産税ノ輕減 漁業ニ関スル會社  
 水産品評會 漁業組合 小樽灣ノ区域 準備米 商況 談話會 農業 耕地反別年別表 植樹  
 鑛山及鑛泉 道路其ノ他 郵便 教育 各學校ノ沿革 虎列喇病 寺院 寺院建立年別表 火災  
 御巡幸  
 發立時代 自 明治廿四年 至 明治三十一年 八ケ年間  
 行政官廳 水産物 水産ニ関スル會社 朝里村鯡収獲高及價格年別表 水産獎勵會 漁業規則  
 漁業組合 精米場 醫師 農業 朝里村耕地反別年別表 土地水面及移民ニ関スル規則  
 植樹及苗圃 鑛山 金融機關 明治二十四年ヨリ明治三十一年ニ至ル村況 教育 衛生 出水  
 火災 各村ノ關係 海水浴 水難救場會 消防組 有志者ノ履歷 明治十年以來ノ入營者 漁業  
 自治制時代  
 保護時代ニ於ケル自治ノ端緒 自治制ヲ布ク 自治機關 村會 部長 伍長 村會議員 教育  
 寺院 道路 熊碓村隧道 日露戰爭ノ出征者及ビ名譽ノ死傷者 漁業 青年會 夜學會  
 愛國婦人會 青年會 明治三十二年ヨリ明治三十九年迄ノ村況 停車場 農業 漁業  
 學事ニ關ス(ママ)タル事柄 追弔會

註 「助」は「場」、「隧」は「石偏に遂」と記載している

### 註 朝里村略図について

現朝里川、枉里川の双方が朝里河と記載され、現枉里川に相当する朝里河に「マサリ」と振っている、また和宇尻山の位置に「止山」と記載されている。幕藩時代、水質、森林維持のために入山を禁じた「おとめやま」のことか

### 位置及境界

朝里村ハ北海道後志國小樽郡ノ東ニ在リ 之レヲ区分シテ熊碓、朝里、張碓、錢函四ヶ村トス 東端ハ北緯四十三度二十分 東経百四十一度十一分ニシテ石狩國札幌郡輕川村ト錢函村ト境界シ 西端ハ北緯(空欄 四十三度十一分) 東経(空欄 百四十四度七十二分)ニシテ 小樽區若竹町ト熊碓村平磯岬ト界ス 北ハ一面小樽灣ニ臨ミ 遠ク海ヲ隔テ増毛山脈ノ先端雄冬岬ヲ眺ム 南ハ余市岳ヨリ起レル山脈ニヨリ札幌郡ニ相接ス 氣候小 東西ノ長サ最モ大ナル所凡ソ(空欄 四里十三町) 南北ノ幅最モ広キ所凡ソ(空欄 三里十町) 面積凡ソ(空欄 七方里六) 里ナリ 氣候ハ温和適順 隨ツテ海陸ノ産物ニ富ムヲ以テ住民繁殖ス 將來有望ノ地ナリ

### 地勢

地勢ハ一体高原ニシテ高低起伏シ木無山ヨリ連脈セル平磯岬ハ北走シテ熊碓村ノ境ヲナス 而シテ神威古潭ノ絶壁ハ(空欄 止山か)ヨリ延亘(ママ)シテ遂ニ朝里村字カムイコタンニ至ル 平地少シト雖モ朝里川兩岸ニハ朝里平原ヲナス 然シテ又石狩平原一部ヲ錢函村濱中ヲ以テ作ルヲ主ナルモノトス 從ツテ此ノ地ハ農産特ニ富メリ 地味肥沃ニシテ耕作ニ適ス 農産物ニ富ナリ 而シテ此ノ高原ハ海岸ヨリ數十間ニシテ例ノシラメトナリ其ノ高サ凡ソ二十間内外ナリトス 海岸線ノ屈曲ナル事此ノ近海ニ名高ク 從ツテ良灣ノ形作り以テ漁業ノ良灣ナリ 今郷人ノ稱セル岬角ヲ擧グレバ下ノ如シ 熊碓村平磯岬、朝里村金子ノ岬 タベ(タジメ)ノ岬、イサキノ岬、神威古タン

註 シラメ川崖

山岳 記述なし

鑛物鑛泉 記述なし

水系 記述なし

氣候

日本海ヨリ來ル暖流ノ為メ当地方海岸ノ海水ヲ緩和ス 氣候ハ例ノ海岸氣候ニシテ温和ナリ 溫度ハ冬期ニ於テハ普通華氏三四十度内外ヲ昇降ス 夏期ハ八十度ヨリ百度ノ間ヲ昇降ス 四月上旬雪止ミ 五月上旬霜止ム 又十月中旬霜結ビ 十一月中旬雪降ル 風ハ三四月ヨリ八九月頃ニ至迄テ西南風多ク冬ハ西北西多シ 春夏ハ概子晴天ニシテ 晩秋雨多ク冬期飛雪多キヲ常トス 而シテ他地方ニ比シレバ降雨ノ量少ナク氣候乾燥シ 隨テ心身爽快ニシテ衛生上良好ノ所ナリ

面積 記述なし

水産物

海産物中巨額ナルハ鯉ニシテ其ノ身欠鯉ハ本道中精良ノ品位ヲ保チ 其ノ他、鱒、鮭、鱒、煎海鼠(なまこ)、軟魚(いか)、章魚(たこ)カレイ類、鯖、アカエビ、ヤシロウ、海タナゴ、イサナ、アブラコ、鰯等ヲ産ス 軟體ニハ鮑、帆立貝、ホッキ 海藻ニハ布海苔(ふのり)、昆布、石花菜(てんぐさ)、ホトゲ(ケ)ノミミ、海苔、若芽ヲ産ス 而シテ河水ニハウガイ、ヤマベ、ナリ

## 陸産物

氣候温暖ナルヲ以テ野生植物夥多ナリ 潤葉樹ニアリテハ楡（方言アカダモ）、ヤマハンノキ、イダヤ、黄蘗（きはだ、方言シコロ）、桑、栗、榲（かしわ）、檜、ニガキ、イヌインジユ、刺楸（せんのみ）等ニシテ松柏科植物ハ蝦夷松、ハビビヤクシン、オンコ、アリ 灌木ニハ、フシノキ、ノリノキ（方言キビタ）、櫟木（方言タランボ）、ツノハシバミ、オオバナハトコ（方言コブノキ）等ニシテ 蔓性植物ニハ、マタタビ、獼猴桃（方言コグハ）、山葡萄、ツルウメモドキ（方言ヤマガキ）等アリ イチゴノ類モ亦多シトス、草木中附子（方言ブシ）ハ、アイヌガ毒矢ヲ作ル原料ニシテ、錢函村ヨリ熊碓村ニ至ル間ニ生ズルモノ毒性劇烈ナリトテ、往時アイヌ各地ヨリ來ツテ之ヲ取リシカバ頗ル有名ナリ カハラナデシコ、ヤマハギ、ノコギリ草、艾（よもぎ）シホガマギク、高原ニ生ズ シラ子アフヒカタクリ、スマレ、春秋開花ス 又羊齒類アリ 鳥類ハ鶯、ホウジロ、シジユウガラ、啄木鳥（きつつき）、カゲス、鷹、鳶、鳥、雀等アリ 野獸ハ羆、狐、兔、栗鼠、狃（いたち）等生息ス 農作物ハ最モナル者ハ林檎、小角豆類、麥、蕪菁、及ビ葱ハ食品トシテ各村同ズ、而シテ錢函村ノ稻田ヨリハ米ヲ産ス 其ノ他菜種ノ産少ナカラズ

## 朝里村戸口表

記述なし

## 風ノ名稱ニ就而

風向名稱ノ如キモ亦通稱アルヲ以テ航海業者ノ能ク記憶セラル、所ナレバ予ノ喋々ヲ要セザルモ、聊カ参考ニ供セン為風稱ヲ左ニ記セン 但シ風稱ノ内、圈點ヲ附シタルハ船手相互ヒニ用ユル略稱ナリト知ルベシ 東方ヨリ吹ク風ノ内

卯ノ方ヨリ吹クヲ「東風やませ」ト云フ

辰ノ方ヨリ吹クヲ 記述なし 註 故横川幸作氏によれば「みなみやませ」

巳ノ方ヨリ吹クヲ 記述なし

西方ヨリ吹ク風ノ内

酉ノ方ヨリ來ル風ヲ「にし」ト云フ

戌ノ方ヨリ吹クヲ「にしたば」風ト云フ

亥ノ方ヨリ吹ク風ヲ「多ば」風ト云フ

南方ヨリ吹ク風ノ内

午ノ方ヨリ吹クヲ「みなみ」風ト云フ

未ノ方ヨリ吹ク風ヲ「くだり」風ト云フ

申ノ方ヨリ吹クヲ「ひかだ」風ト云フ

北方ヨリ吹ク風ノ内

子ノ方ヨリ吹クヲ「阿以」ト云フ

丑ノ方ヨリ吹クヲ「阿以し毛」風ト云フ

寅ノ方ヨリ吹ク風ヲ「し毛やませ」ト云フ

(尚四季ニ於テノ風向ノ具合)

## 風俗

正月元旦ニハ屠蘇酒ヲ酌ミテ新年ヲ迎へ、七日ハ人日ト稱シテ七葉ヲ食シ、三月三日ハ上巳ト稱シ

テ曲水流觴ノ遊ヲ催シ、四月八日ニハ灌仏ノ式アリ 五月五日ノ端午ニハ艾糕（ちまき）ヲ食シ香草湯（菖蒲IIしょうぶ湯）ヲ浴ス 七月七日ノ七夕ニハ小兒廻遊シテ其ノ豊年ナルヲ天ニ祈リ 七月十五日ニハ中元ト稱シ盂蘭盆ヲ行ヒ諸佛ニ供養シ、歳終ノ除夕ニハ追儼ヲ行ヒ、疫癘ヲ禳フ 是等ノ年中行事ハ支那ニ於ル昔時即チ秦漢時代ヨリ次第ニ發達シ唐代ニ完成シテ現時ニハ我國ニ傳ハレ即チ内地人ノ渡島ノアリス以來ノ習慣ナリシト

### 註

人日II「荆楚歳時記」五節句の一。陰曆正月七日の節句。七種（ななくさ）の粥を祝う。ななくさ。上巳IIじようし、五節句の一つ。上巳は旧曆三月上旬の巳の日で、この日の行事が三月三日に固定し、雛の節供をさすようになった。水辺に出て禊をした中国古代の風が伝えられて巳の日の祓となり、人形を水に流して穢けがれを祓ったが、この人形が雛人形になり、雛祭になったという。疫癘（えきれい）ヲ禳フII災いをお祓いする  
追儼（ついな）大晦日の夜、悪鬼を追い払う行事

### 習慣 記述なし

### 石器時代 記述なし

### アイヌ人種

#### アイヌノ骨格

アイヌノ頭蓋骨ハ前後ニ長ク其ノ縫合ノ鋸齒（各骨の継ぎ目の性状）ハ單純ナリ 顔面ハ低下シ眼

窩ハ廣濶ニシテ脛骨ハ扁平且前後ニ長シ 頭髮鬚髯ハ黒ク且全身多毛ナリ 世界廣ク人種多シト雖モ斯ノ如キ多毛種人種ハ甚ダ稀有ノ數ナリ 現今ノアイヌハ雜婚ノ爲メ特殊ノ異点ヲ減失スルニ至リシト雖今猶兩眉連接シテ一直線ヲナセルモノアリ

### 人種

而シテ人種ハ白哲人蒙古人マレイ人又ハ一種特異ノ人種ナリトノ學說アリ

### 衣服

衣服ハ樹木ノ軟皮ヲ以テ織リ之ヲアットシト稱ス 着法ハ左衽(おくみ)ナリ 冬ハ獸皮ヲ着セリ 林子平ノ三國通覽圖說ニ鹿皮ヲ腹卷トセシ圖アリ 又日本書紀景行天皇四十年ノ條ニ毛ヲ衣トストアリ

### 裝飾

裝飾ハ男女トモニ耳環ヲ用ヒ婦女ハ口邊額及手腕ニ黥ヲ施シ、滿洲玉ヲ以テ頸及胸ヲ飾リ、貝殻ヲ以テ耳及胸紐ノ飾リトシタリシガ、現今ニ至リ漸次是等ノ風俗ヲ改メシモノ少カラズ 蓋シ滿洲玉ハ往事薩哈連(サガレン||樺太) 島ヲ經テ渡來セシモノニシテ、滿洲人ト間接ニ貿易セシコト明ナリ

### 食物

食物ハ野草、草木ノ果實、鳥獸魚介ヲ食トシ、現時ノ如ク穀食セサリシ蕃人ナリ 日本書紀齋明天皇ノ條ニ奴等肉ヲ食ストアリ 又土ヲ食セリ 積丹郡シエシユナイ川筋ニチトイエナイナル地名アリ直譯セバ 我レ土ヲ食ス澤ノ義ナリ

### 器具

漁獵ニハ船ニ乘リ銛又ハ魚掬(ヤス)ヲ以テ河海ニ漁撈ス 山獵ニハ弩及弓矢ヲ用ヒ、簇ニハ楯シ草ヲ以テ製シタル毒ヲ塗リ射殺セリ 家具ハ杵、臼及汁器ヲ樹木ニテ作り食器ニ充テ往々貝殻ヲ箸又ハ匙ニ換フルモノアリ

## 居住

家ハ堀立小屋ニシテ床ヲ設ケズ茅又ハ笹等ニテ屋根ヲ葺キ四周ヲ圍エリ 家ノ東方ニ巖ノ頭骨ヲ木竿ニ貫キ、其ノ頭數ノ多キヲ以テ榮譽トシ、家ニ死者アレバ家ヲ焼キ他地ヲ撰ンデ新築セリ 此ノ如キ家屋ノ構造ハ幾百年來變更セザリシト雖モ太古ハ穴居セシナラン 近クハ薩哈連島及千島アイヌ堅穴ニ居住セシト 今ヨリ七八百年以前日本武尊日高見（北海道ノ日高ニアラズ今ノ常陸地方ナラン）ノ蝦夷ヲ討伐セラレシ時、冬ハ穴ニ宿リ、夏ハ則チ櫟ニ住ズトアルヲ以テ推知スルヲ得ベシ

## 歌舞

ユウカリハ淨瑠璃ノ如キ類ニシテ往古ノ傳説ヲカタルモノナレバ古事ヲ知ルニ裨益アリ 又鶴ノ舞アリ 其ノ他種々ノ歌舞遊戲アレド地方ニヨリテ異ナレリ

## 宗教

アイヌハ日ヲ女神トシ月ヲ男神トシ雷鳴、日蝕、月蝕ヲ畏敬崇拜ス 其ノ他鳥、獸、魚、樹木、岩石、河海、等恐怖ト尊敬ノ觀念ヲ惹起セシムル物ハ之ヲ尊崇ス 例セバ小樽郡神居古潭（神座スノ義）ノ懸崖、巖、鷲、蛇及水火ヲ崇拜スルガ如シ 而シテ是等ヲ祭ルニ木幣（イナウ）ヲ立ツルヲ常トス

## 刑罰

犯罪者ノ拷問ハ熱湯中ニ石ヲ入レ之ヲ探ラシムル法、掌上ニ草葉ヲ置キ其ノ上ニ火ヲ載セ握ラシムル法、冷水ヲ多量飲マシムル法及鞭杖ノ四種アリ 處罰ハ寶物ヲ以テ贖罪セシムル法、鼻又ハ耳ヲ截リ殺クノ法、足ノ筋肉ヲ切断スルノ法アリ 盜犯姦淫喧嘩等罪ノ輕重ニヨリ適用ニ差アリ 而シテ姦婦ハ普通頭髮ヲ鈍キ刃物ニテ剃髮セラレ、死刑ハ一般ニ行ハレサリシト雖モ地方ニヨリ實行セシ所アリ

## 家政

男夫一家ヲ主宰シ海陸ニ食ヲ求メ、妻ハ薪ヲ伐採運送シ家ニ在ツテハ苳ヲ編ミ衣服ヲ織縫シ食物ノ

調理ヨリ大羆ノ飼育等二日モ亦足ラザルガ如シ 父ハ男児、母ハ女兒ヲ教訓ス サレド一夫多妻ノ風俗ナリ

酋長

酋長ハ世襲ナルモ己レノ子孫ナクンバ部下ノモノ集議シ、正直ニシテ知勇アルモノヲ撰定シ一部落ヲ總理セシム 而シテ各部落ニハ領土ノ境界確定シアリテ俣(みだり)リニ他部落ニ出入獸獵シ及嫁娶スルヲ許サズ 之レヲ犯サバ各部落間ニ波亂ヲ惹起シ鬪争ヲ生ズ

蕃人

往昔アイヌハ稼穡ヲ知ラズ又文字ナシ 重大ナル事件ヲ記スルニハ結繩契木ノ二法アリシノミ 且人ヲ屠リ食セリ 今猶共食ナル言語アリ 若シ食ニ欠乏ヲ告グレバ他ニ轉住シ蒙昧野蠻ノ種屬ナリシモ、當地方ハ貞享年間(一七一六—一七三六)ヨリ歸服シ王化ノ澤ニ浴セシヨリ次第ニ其ノ醜俗ヲ脱却シ、現時ハ當地方ニアイヌ人種毫モ住居セズ 然レドモ地方ニ多ク而シテ今ハ、耕作牧畜ノ業ヲ營ミ、子弟ハ算筆讀書ヲ修メ我等ト同一ノ法律ヲ遵守シ、同一ナル納税ノ義務ヲ負ヒ徵兵令ノ發布アリシヨリ國家干城ヲ負擔スルニ至レリ 唯憐ムベキハ耐忍心ニ乏シキヨリ劣等ノ地位ヲ甘授シ優勝劣敗ノ結果人口漸次減少セリ 本表ヲ見テ知リ得ベシ

註 黥<sub>II</sub>ゲイ、いれずみ

薩哈連島<sub>II</sub>サガレン(サハリン、樺太)はかつて半島ではなく島と理解されていた時期があった

アイヌ人口表 記載なし

## 創業時代

藩臣ノ領土及請負人及其ノ年期

松前家ハ寛永十拾二年（一六三五）及寛文元年（一六六一）ノ二回北海道全寫ヲ測リテ地図ヲ製シ元禄十三年（一七〇〇）ニ蝦夷全郷ノ郷帳ヲ編ミ、貞享二年（一六八五）ヨリアイヌ歸順シテ戦乱止ミシカバ、其ノ後アイヌノ割據地ヲ縮少シ是ヨリ奥地ヲ藩臣ノ領土ニ分割附與セリ 其ノ歲月不明ナリト雖モ慶長年間（一五九六〜一六一五）以後ナラン 松前道中記ニ依レバ小樽郡（舊名小樽内領）ハ氏家新兵衛トアリ 其ノ他ノ各郡モ藩臣ノ領土トハナリタルモ各自ノ領土ニ移轉セズ又其ノ家臣スラ派遣セズ、應ニ畫策スベキ拓地殖民ノ大計ヲ施サズ唯領土ノ漁業地ヲ請負人ニ貸附セリ 而シテ請負人モ亦請負地ニ赴カズ各漁場ニ運上屋ヲ建設シテ支配人ヲ置キ、番屋ヲ建テ番人ヲ置キアイヌノ通辞ヲ置キテアイヌヲ漁業ニ使役シサレバ支配人等ハ恰モ半官半民ノ機能ヲ有シテ土地人民ヲ支配セリ 最上徳内ノ蝦夷草紙ニ

「松前家古來ヨリ領内ヲ請負人共ニ渡シ置ク故ニ自分領地ノ政事ハ勿論境界ノ廣狹モ知ルモノナシ 蝦夷地ニ侍ハ一人ニテモ住居セザルコトナリ・・・ 蝦夷地中ハ皆請負人ニ任セ置ク故ニ請負人手先ノ者ノ外行ウベキ用事モナシ 此故ニ他國ノ人ハ勿論、松前ノ土人ニテモ猥リニ蝦夷地ニ入ルコト停止ナリ 請負人ハ必ズ松前地方ニ居住スルモノニ限り之ヲ許シ、多クハ商人又ハ漁業者ニシテ宿ト稱スル身元引受人ト連署シ年期ト運上金ヲ定メテ漁場ヲ借り受ケ漁業ニ従事セリ 而シテ年期満ソルニ先立テ再願セバ概子繼續スルヲ得タリ 年期ハ時代ニヨリテ異ナリト雖モ通常三年五年七年ヲ一期トシ若シ法ヲ犯スカ又ハ非常ノ過失アルニ於テハ漁場引拂ヲ命ゼラレ領主ハ更ニ他人ニ貸豫セリ

註 松前蝦夷地道中記 山崎源太左衛門著 文化五年（一八〇八）仙台藩クナシリ勤番の帰国日記。

七月一日（西別）より八月二十四日（箱館）までの路程の簡単なメモ。

蝦夷草紙 最上徳内、天明五年（一七八五）から翌年にかけての幕府蝦夷地調査に参加した際の  
見聞をまとめた記録で、寛政二年（一七九〇）九月の自序がある。アイヌの風俗、蝦夷地の地誌  
などを詳述する

## 移民制度

元禄四年(一六九一)二月及五月改正セシ藩令ニ

一 他國ヨリノ者奉行名主へ無断有付候者其村拂可申候 自然國所不分明渡世ノ營無之様疑敷者ハ子細相尋ネ町奉行所迄可申越候事

一 支配ノ村々百姓(漁夫ヲ云フ)一人モ他村へ有付間敷候 惣テ跡目無断絶様可申付候事

一 西在郷ニ近年猥ニ年取(越年ノ義)候百姓其外所々へ不出ザル様ニ急度申付候事 若シ無據(よんどころなく)西在へ年取候百姓ハ歩錢可申付候事

他國ヨリ來ルモノハ必ズ寺判ヲ要シ許可ヲ得テ後仮移住スルヲ得ルモ許可ヲ受ケザルトキハ土着スルヲ得ズ 又無職業ノ者僧侶、虚無僧、諸藝人ノ渡來ヲ禁ジ、既ニ土着ノ在住人ハ他村へ移轉スルヲ得ズ 而シテ当地方へ出稼スルモ越年ヲ禁アリ 若シ越年スルトキハ越年役ヲ納シメ、容易ニ移住又ハ移轉セシメズ 且婦人ハ積丹半寫ノ盡頭神威岬ヨリ奥地ニ行クヲ許サズ 而シテ此レ等ハ嘗テアイヌノ惡謀ヲ以テ松前家ヲ亡ボサントセシヨリ移民トアイヌノ交通ヲ遮断センタメ此ノ如キ移住制度ヲ定メタリト云フ 且寛永年間(一六六一—一六七二)西教(基督教)ノ禁ト共ニ大船ヲ造ルノ禁アリ 奥羽スラ一朝飢饉ニ際スレバ餓死ヲ免レズ、況ンヤ未ダ五穀ヲ耕作セズ且大波ノタメ水運ノ不便ナル北海道ニ移住者増加シ若シ内地ノ凶作ニ遭遇セバ餓死アルノミ 殊ニ平素スラ冬期ニハ米価昂騰ノ虞アリケレバ斯ノ如キ藩令ヲ定メタリト云フ サレド施政其ノ当ヲ得タリト云フヲ得ズ 之ニ反シ松前藩主ニシテ藩臣ヲ各領土ニ移着セシメ、移住者ヲ轉住セシメ漁業ヨリ生スル租税ノ増加ヲ以テ荒蕪地ヲ開發シ五穀ヲ耕作スルノ方策ニ尽シタリ

## 漁業税

藩臣ハ領土ヲ請負人ニ貸與シ運上金ヲ徴シ又自家ノ賄料トシテ領土ノ産物ヲ現品ニテ収メシム 之レヲ差荷ト云ヘリ 後ニハ差荷ヲ金納ニセリ 其ノ外場所ニヨリ松前藩主ヨリ藩士ヲ派シ請負人ノ船ニ

便乗シ献上品ヲ徴スルアリ 之ヲ上乘ト云ヘリ サレド風水疫病等ノ災厄ニ罹リシ年ハ領主ニ哀願セバ其年ノ運上金ヲ減免セリ 然レドモ亦御用金等ヲ請負人ヨリ調達シ、不時ノ失費ヲ生ズルコトアリ

### 漁業制度

鮑ハ串貝ト稱シ煎海茸ト共ニ長崎俵物ト唱ヘ猥リニ賣買スルヲ得ズ 而シテ和人ニ之ヲ許ス時ハ密賣買ノ患アリシヨリアイヌニ漁獲セシメタルガ如シ 鮪ト漁期ヲ異ニスル昆布、鮭、鱒、鱈ノ如キ漁業ハ勢ヒアイヌノ職業トナレリ 要スルニ和人ヲシテ漁獲セシムルヨリアイヌヲ使役スル時ハ其ノ利益大ナルヲ以テ請負人ハ此等ノ規定ヲナセシナリト 身欠鮪ハ二十尾ヲ一撃(一撃)トナシ之レヲ超過スルヲ許サズ 又運上屋ノ支配人検査ヲ遂ゲ、二八ヲ納レタル後ニテアラザレバ窃ニ乾棚ヨリ卸シ又ハ荷造スルヲ許サズ 且ツ二八取りノ住家ハ皆掘立草葺小屋ニシテ四周ニ「サクリ」ヲ入レ床ヲ作り入口ニ戸ヲ用ユルヲ禁ゼリ 蓋シ此ノ禁アルニ収獲物ヲ隱蔽スルノ虞アルヲ以テ支配人ハ斯ク權宜ニ基ク規則ヲ定メタリ 又延享三年(一七四六)三月海濱ニ近ヅキ発砲スルコトヲ漁網ヲ解放シオク事、ウケヲ切り及夜中漁網ヲ海中ヨリ引揚グルヲ禁ゼリ 且ツ漁家ノ慣例トシテ漁期中河ニテ鍋ヲ洗フ事刃物ヲ海中ニ入ル、事及音聲ヲ發スル鳴物ノ禁アリサレド此等ハ漁場ノ一般ナリ 其ノ他製鹽ノ禁アリ 其ノ故何ノ為ナルヤヲ知ラズ

### 註 サクリ溝

### アイヌの使役

此ノ如キ移住制度ニテアリケレバ、往時漁業ニハ專ラアイヌヲ使役セリ 表面上此レヲ保護ストアレド其実却而苛酷ニ之ヲ使役セリ サレバ蝦夷草紙ニ

エソ土人日本言葉ヲ使ヘバ通詞是ヲ責メテ令ヲ背キタル科ノ遁レ難キ責メテ償ヒトシテ過料ヲ出シ自ラ罪ヲアガナワサレルリ、又蓑笠着用スレバ前章ノ如シ 草鞋脚半ヲ履ケバ又前章ノ如シ 日本風俗ニ化シ染サル様ニスル松前領主ノ掟ナリ

トアリテ無情刻(ママ、酷か)薄ヲ極メタルガ如シト雖モ、松前藩主ハ決シテ此ノ如キ制度ヲ設ケテアイヌノ撫育ヲ禁ゼシニアラズ 秀吉ノ禁制ハアイヌニ非分ノ申懸ヲ禁ジ元禄四年(一六九二)四月改正セシ拾五ヶ條中ノ第一條ニ「非分ノ儀申懸間敷旨能々可申付候」トアリ 又全六年(一六九三)二月ノ藩令ニ「濫リニアイヌヲ奴僕ニスルヲ禁ジ」、享保元年(一六五六)五月蝦夷地方ヲシテ雜穀ヲ種ヘシメタルガ如キ方針ヲ採レリ サレド漁場ニ於ケル實際ハ、介抱ヲ名トシテ地方ニヨリ苛酷ニ取扱ヒタルハ愚ニシテ治メ易カラシメナランモ、开(かい||開陳の意)ハ使役者ノ寛嚴如何ニヨレリ藩政ナラザリシナリ

### アイヌ移轉及出稼

漁場請負人ノ支配人ハアイヌヲ使役スルニ便セン為メ運上屋近傍ニアイヌヲ住居セシメ、總乙名、脇乙名、土産取リト稱スル役土人ヲ置キアイヌ部落ヲ支配セシメタリ 而シテ移轉ノ一例ヲ擧グレバ錢函村オタルナイ川ノアイヌヲ小樽港入舟町(原名クツタルシ)ニ移シガ如シ 又石狩川口ハ鮭ノ産地ニシテ鯨漁ナシ故ニ、石狩アイヌハ小樽ニ出稼シ、南海岸膽振國虻田郡地方ノアイヌ間々山ヲ踰ヘ當地方ニ入稼セシモノアリタリ

### アイヌノ勞動賃

アイヌヲ漁業ニ使役シ日々米、酒ヲ與ヘ收獲高ノ多寡ニヨリアイヌノ欲スル器物衣食品ヲ給シ而シテ貨幣ヲ與ヘズ 故ニ現今寶物トシテ漆器刀劍等ヲ貯藏スルハ此給與物ナリ サレド納税ノ義務ハ負擔

セズ

### 和人ノ入稼

既ニ記述セシ理由ニヨリアイヌノ戸口ハ次第ニ減少ノ傾向ヲ顯セリ 殊ニ寛文十一年（一六七二）乃飢饉、元禄十一年（一六九八）及安永九年（一七八〇）ノ疫病ハ痛ク当地ノアイヌヲ斃シタリ 而シテ水産物豊カナレド是ヲ漁獲スル人ニ乏シケレバ、松前地方ノ漁夫漁期中入稼スルニ至レルニ漁利巨大ニアリケレバ、南部津輕等ノ者松前江差等ノ住民ノ名ヲ籍（か）リ入稼セシモノアリテ漁期中ハ賑ヘリト雖モ入梅ノ頃ヨリ皆引揚ゲ留マルモノハ運上屋ノ番人ニ過ギズ 是レ藩政カ移住土着ヲ容易ニ許サバリシニヨル 而シテ此入稼者ハ鮮収穫高ノ二割ヲ租稅トシテ運上屋ニ入レシニヨリ二八取リト名ツケ又百姓トモ呼ベリ

### 漁網

慶長年間（一五九六）一六一四）ニ福山ノ八木勘右衛門、小樽ニ來リ漁業ニ從事シ、延寶年間（一六七三）一六八〇） 提樹（シナノキ）ヲ以テ網ヲ木ノ輪ニ結ビ箆様ノモノヲ漁具ニ用ヒタリト云フ 故ニ往古ヨリ使用セル差網ハ延寶年間以前ニ使用ヲ初メシナラン 箆網ハ東蝦夷地ニ於テ寛政年間（一七八九）一八〇〇）ヨリ使用ヲ初メケルガ当地方ハ其ノ以後ナリ

註 この項、著者は「網」と記載している。「網」の誤か。

### 商業

請負人ハ漁場ニ必要ナル總ベテノ物品ヲ仕送り二八取り及アイヌニ米鹽贈其ノ他必需ノ物ヲ貸與シケレバ、商業ヲ營ム者ノ、ナキハ自然ノ勢ヒナリシト雖モ、安政以前ハ請負人商業ニ從事スルヲ許サズ

之ヲ犯サバ追放ノ一葦アルノミ 要スルニ此等ハ其ノ利益ト又アイヌトノ密賣買ヲ防グタメナリシナラン

### カムイコタンノ崩壊

北海道蝦夷語地名解ニヨレバカムイコタント呼ブハ妄稱ニシテカムイヘロキ(カムイ $\parallel$ 神、ヘロキ $\parallel$ 鮓)ナリト 余の聞ク所ニ依レバカムイエロク(カムイ $\parallel$ 神、エロク $\parallel$ 座ス)ノ義ナリト 此ノ地ハ朝里大字朝里村ノ東端ニアリ縣崖十丈餘恰モ掌ヲ立テタルガ如キ嶮岨ノ地ニシテアイヌ此地ヲ過グル時ハ必ズ木幣ヲ建テ神ニ手向テ尊敬シ此地方凶事アル時ハ前兆著シト信ゼリ 故ニ此處ノ變事ハ能ク記臆シ後ニ傳ヘラレタリ 今此地ノ崩壊セシ年度ヲ擧グレバ寛文七年(一六六七)、天明八年(一七八八)、文化三年(一八〇六)五月、文政四年(一八二二)四月、及弘化三年(一八四六)三月二十七日ニシテ其度毎ニ附會シテ爭乱ノ前驗トナセルモヲカシキ至リナリ

### 地震及津波

寛政四年(一七九二)五月二十四日申ノ刻地震アリ 忍路ハ沖ノ方震動シ尋(つい)テ大地震動シ故ニ忍路灣ノ左右ノ岩壁崩壊シテ土烟ヲ發シ海水溢レテ陸ニ上リ海濱ニ引キ揚ケタリ 此ノ海嘯(かいしょう)ハ小樽郡ヨリ美國ニ及ビ同地ノ和人及アイヌ乃溺死セルモノ多カリシト云フ

### 神社(張碓)

請負人ハ昔時ヨリ漁場ニ神ヲ祭りテ豊漁ヲ祈リシコトハ各地一班ノ習ナリシナリ 故ニ祭神ノ濫觴ハ漁場創開ノ時ヲ示スト雖モ、後世往々建立ノ年改竄セシヤノ嫌アリ 而シテ後志國九郡中最古ノ神社ハ高寫村及ビ張碓村ノ稻荷社ニシテ創建ハ元祿三年(一六九〇)ナリ 此ノ二社ハ後志國中最モ古キ神社ナレバ、朝里高寫地方ハ他郡ニ比較シ早ク漁業セシガ如シ 今元祿三年(一六九〇)ヨリ寛政年

間（一七八九〜一八〇〇）ニ建立セシ神社總數ヲ舉グレバ、只一社ニシテ左ノ如シ

神社表

所在郡名	所在村名	創立年月	資格	社名	要領
小樽郡	張碓村	元禄三年		村社	稻荷社
					四ヶ村中最古ノ神社ナリ

### 佛寺

移住制限ノ爲メ漁期中入稼セシニ過ギズ 故ニ佛寺ヲ建立スルノ必要少ナク適々死者アレバ便宜ノ地ヲ相シテ埋葬セリ 殊ニ勸化ヲ職トスル僧徒スラ元禄十一年（一六八九）五月他國ヨリ來住ヲ禁止シタリ 故ニ佛教ノ擴張セザル事推シテ知ルベシ

### 小樽郡ノ沿革

小樽郡ハ小樽内領又ハ小樽場所ト稱シ松前藩臣、氏家新兵衛ノ采地ナリケリ 元禄十一年（一六八九）ノ松前郷帳ニ、ヨイチ、シクズシ、カツナイ、オタルナイ、ハツシヤブ、ト順記シアリテ、小樽内ハ錢函村ノ境界小樽内川ヲ指示セリ 蓋シ松前郷帳ハ全島ノ主要ナル地名ヲ記載シアルモ小字ノ地名ヲ記サズ 何故ニ錢函以西ノ小樽内ナル地名ガ此ノ地ニ命名セラレシヤ北海道蝦夷語地名解ノ如ク松前藩政ノ時、請負人岡田ガ小樽内川ノアイヌヲ今ノ入船町（原名クツタルシ）ニ移シタルニヨリ其ノ當時ノ石狩ノアイヌ等、クツタルシニ移轉セシアイヌヲ小樽内アイヌト呼ビシヨリ不知不識ノ裏ニクツタルシ及小樽内ノ二地名ヲ同一ヶ所ニ生ゼシメタルニ基因シ、石狩住民ノ呼ビシ他稱ノ地名ナリ 天明年間（一七八一〜一七八八）ノ西蝦夷行程記ニモクツタルシト書シ小樽内ノ地名ハ張碓以西ニ記載シアリテ小樽港付近ニ其ノ名ナシ 故ニ往時ヨリ小樽内ノ地名ヲ研究セシ人多キモ後世ノアイヌ之レヲ知ラズ 是レ現今ニ至ルモ伏會ノ説止マラザル所以ナリ 却説小樽ノ請負人ハ今ノ江洲商人岡田

八十次ノ祖先ニシテ十数年前書記セシ同家ノ履歴書ニヨレバ「凡ソ二百年前請負人トナル」トアレバ貞享、元禄年間（一六八四〜一七〇四）ニ請負人トナリ其ノ當時小樽内ノアイヌヲクツタルシニ移シタルナラン 爾來數代繼續シテ慶應元年（一八六五）ニ及ベリ 而ルニ北海道漁業志畧ニヨレバ是ヨリ先キ慶長年間（一五九六〜一六一四）福山ノ八木勘右衛門小樽ニ來タリテ漁業ニ從事セリト云フ 果シテ然ラバ小樽ノ移民及ビ漁業ハ頗ル古シト謂フベシ

註 松前郷帳Ⅱ元禄年間（一六八八〜一七〇三）の末、松前藩が幕府に提出した所領の状況書

西蝦夷行程記Ⅱ文化二年、遠山金四郎巡検の際に作られたオタルナイ場所までの西蝦夷地の地名、特徴の記載、自ら調査した小字名を附した。末尾に紀行文あり

### 漁場ノ創開

岡田氏、創開セシ漁場ハ享保年間（一七一六〜一七三六）ニ熊碓、朝里、張碓ニ各一ヶ所 而シテ其ノ他オコバチ（今ノ高島小樽郡界オコバチ川附近）及クツタルシ（今ノ入船町及港町附近）各一ヶ所、寛政中信香、アットマリ（今ノ若竹町附近）ノ七ヶ所ナリ

天明年間朝里村ノ概況表

西蝦夷行程記抜粹

アイヌ語地名	アイヌ語地名義解	現時ノ村名	運上屋	番屋	鮮小屋	アイヌ小屋	要領
クマウシ アツウシユナイ マサリ カムイエロツク ハルウシ レブウングルトマリ	魚乾棚多キ義 ? ? 神座ス義 食料多キノ義 来謁ノ際泊舟セル所ト云ヒ 又山舟人ノ来泊セシ処ナリトモ云フ	熊碓村 朝里村 全 朝里村カムイコタン 張碓村 全		一軒 一軒	家立並フ 全 所々ニ在リ 立並フ 全	六軒	朝里川ニ橋アリ 大岩ノ間ヲ通行シアリ

## 初期幕政時代

### 幕府ノ政策

幕府ハ杞憂トスル要旨ハ松前藩租税ヲ增收スルニ隨ヒ漁場請負人ハ勢ヒアイヌヲ虐使シ終ニハ露人ニ歸服シ外交上ノ紛擾ヲ醸生セシコトヲ顧慮スルニアレバアイヌ撫育ヲ最要件トシ望ムモノニハ農具種物ヲ給與シテ農業ヲ奨勵シ和語ヲ教ヘ次第ニ文字ヲ教授セントス 蓑笠草鞋ヲ使用セシメ和人ガアイヌ婦人ヲ妻妾ニスルヲ禁ジ一部落間結婚ノ風俗ヲ改メ其ノ範圍ヲ擴メ入墨、耳環、及左衽ノ俗ヲ改メシタメ専ラ保護ヲ加ヘテ彼等ヲ同化セント務メタリ 斯ク一方ニハ保護ヲ加フルト同時ニ對外政策トシテアイヌニ對スル法三章ヲ規定セリ

一、邪宗門ニ從フモノ外國人ニ親シムモノハ其ノ罪重カルベシ

一、人ヲ殺シタルモノハ皆死罪タルベシ

一、人ニ疵ツケ又ハ盜スルモノハ其ノ事ニ應ジ咎アルベシ

トノ簡易ナル規定ヲ設ケテアイヌヲ制箝シタリ

註 制箒Ⅱ箒制（かんせい）、束縛して自由にさせない意

請負人

請負人ハ松前藩政ノ時ト均シク小樽郡ハ岡田八十次之ヲ請負セリ

小樽港の状況

小樽港ノ形勢ハ近藤重藏ノ建議書ニヨリ其ノ概況ヲ察知シ得ルナラン 而シテ文化四年（一八〇七）高崙警衛ニ來タリシ一人ノ記文

手宮ハ高崙ヨリ出立ノ人ヲ送り出ツル所ニテ江戸ナドニテ品川、千住、板橋ナド云フ処ノ如シ 去ナガラ宿繼ト云フモノナク此処ニ小休所・・・アリ云々 又小樽内ニ來リ一歌ヲ詠ジ

酒も阿り肴は鮭の阿り奈がら

たった一ツの小樽内とは

近藤重藏ハ小樽郡ニ鮭取小屋ニ三百ヶ所立続キ此ノ人数二千有餘人アリト記セシモ当時小樽ニ酒ヲ入ルベキ唯一ツノ樽ナシトテ一歌ヲ詠セラバ当時不便ナリシ事ヲ知り得ベシ

註 近藤重藏の意見書Ⅱ文化四年、石狩平野に道都建設の意見書

神社表

所在郡名

所在町村名

創立年月

資格

社名

要領

小樽郡 熊碓村 文化十二年 村社 稻荷神社

### 松前藩政時代

時代ノ性質 記述なし

### 漁場ノ新開

請負人岡田氏ハ錢函村ニ漁場一ヶ所ヲ新開シ(ママ)

### 運上金其他

請負人ヨリ藩主ニ納ムル漁業税八年ニヨリテ一定セザリキ 文政六年(一八二三)後ノ運上金ノ表左ノ如シ

郡名	年号	運上金	鮭	鱒	二八豫金	上乘金	差荷代	請負人
小樽郡	文政八年ヨリ	三百七十両	百二十両	十七両	十両	一五両	二十五両一分	恵比須屋弥兵衛
	天保二年迄							永百四十文

### 漁網ノ改良 一

往時ヨリ鮭ハ差網ヲ使用シ、稀レニ引網ヲ用ヒタリ 鮭鱒ハ引網ノミヲ使用シテ漁獲セリ 故ニ鮭ハ現今ノ如ク一回ニシテ多額ヲ得ル事能ハザリキ 且ツ肥料ニ用ユル絞粕ヲ製造セズ唯メキリヲ以テ之ヲ製造スルニ止マレリ

註 この項、また次の二項でも著者は「網」と記載している。

### 笹網

天保元年（一八三〇）忍路ノ番人勘右衛門、笹網ヲ仕立テ、全十二年忍路郡各所ニ之ヲ投網使用セシヨリ次第ニ各郡ニト傳ハレリ 建網ノ起原ハ明瞭ナラザルモ九郡ニ先チ引（ママ）天鹽國ハ早ク之ヲ使用セシカ天保十一年（一八四一）忍路運上屋番人五三郎、増毛ニ於テ之ガ功用ヲ覺リ翌十二年支配大場庄兵衛ニ説キ忍路村カブト岬付近ニ投網シ、是等ハ皆漸次各郡ニ傳ハレリ 而シテ是等ノ網ハ現今ノ製作ニ比スレバ不完全ナリト雖モ、差網ニ比スル時ハ收獲多ク、隨テ絞粕ノ製造起リ漁場隆盛ノ一大源因トナレリ 偕テ此ノ時代ニテハ各郡共々請負人ノミ建網ヲ使用シ汎ク二八取りエハ使用ヲ許サバリシカ 建網ハ鱈ノ繁殖ヲ防害シタリ

### 建網使用ノ禁

偕テ又差網使用者ノ營業ニ影響ストテ、松前藩其ノ使用ヲ禁ゼシガ、弘化元年（一八四四）二月西地請負人一同ヨリ差網使用シ難キ漁場ハ其ノ使用ヲ許可アリタシトテ哀願セリ 松前藩之ヲ許可ス 然レドモ漁業者中口実ヲ設ケ猥リニ使用スルモノアルヲ以テ安政元年（一八五四）松前藩再ビ使用ヲ禁ゼリ

### 神社

此ノ時代ニ於テ已ニ小樽郡ニテハ二社アリ 而シテ他郡ノ神社建立總數二十社アリ 之ヲ要スル二神社ノ建立多キハ漁業ノ盛況ヲ示ス現象タリ

所在郡名	所在町村名	創立年月	資格	社名	要領
小樽郡	錢函村	天保元年	村社	稻荷神社	

朝里村

天保五年 全

全

一説ニ寛政元年（一七八九）四月創立トアレド姑ク北海道志ニヨリタリ

鯉収獲高 記述なし

兵備

安政元年（一八五四）下田條約締結以來外交事件頻ニ起リ、兵備ヲ整フルノ必要ニヨリ警備ヲバ益々嚴ニシケルモ、後志國歌棄郡ヨリ石狩國厚田郡ニ至ル各郡ハ御料地ト稱シ幕府特ニ直裁ス 事アルニ際シ各藩ノ兵ヲシテ緩急應援セシムルニアリ 而シテ又石狩國札幌郡ニ土着セシモノ数十名ノ内小樽内川最寄ニ永島弦造、張碓村ニ葛山幸三郎在住シ且ツ各郡運上屋ニハ松明三百本草鞋三百足、幕串百本ヲ請負人毎歳新調準備シケレバ守衛梢備ハリタリ

註 幕串＝幕を張る為に立てる細い棒。串

勤番所

函館奉行所ハ全寫ヲ總括シ石狩河口ニ調役並ヲ置キ小樽郡ヨリ積丹郡ニ至ル七郡ヲ管轄（轄の誤りか）ス 各運上屋アル所ニ足役、足輕、同心ヲ在住セシメ行政、司法、警備ノ事務ヲ處理セリ

移住制度 記述なし

請負人

小樽郡ハ慶應元年（一八六五）ニ村並トナシ岡田八十次ノ請負ヲ解キ、收納會所ヲ信香町ニ置キ幕府直ニ漁業其ノ他ノ租税ヲ徵集セリ 然レドモ他郡ハ従前ト異ナラズ

## 土地ノ名稱

各地ノ地名多クハアイヌ語ヲ以テ稱呼シ之レヲ書スルニ假名文字ヲ用ヒ地名ノ下ニ「ウタ」ナル語ヲ添ヘ、ハルウスタ（張碓村ノ原名）ト稱セシガ此ノ時代ヨリ漢字ヲ地名ニ充用スル事トナリタリ 例セバ小樽ノ原名オタルナイヲ穂足内又ハ小足内ト書シテムムンヤヲ手宮ト書セシガ如シ 徳川齋昭、堀利熙ハ全寫ヲ國郡町村ニ區畫シ名稱ヲ一定スルノ必要ヲ議シタルモ實行セラレズシテ止ミシガ小樽ハ村並トナリ名主、年寄ヲ置キテ町村ノ事務ヲ取扱ハシメ漁場則チ「ウタ」ト稱スル所ニ濱名主百姓ヲ置キ漁場ノ事務ヲ取扱ハシメタリ

## 道路

安政四年（一八五七）小樽請負人惠比須屋半兵衛熊碓村ヨリ錢函村字オタスツマデノ山道ヲ開鑿ス 此ノ工事ハ人夫五千六百餘人ヲ要ス内五百餘人ハカムイコタン險難ノ地四十間ヲ開鑿スルニ要セリト云フ 翌五年ニハ小樽内川、朝里村張碓川錢函川ニ橋ヲ架シ 慶應二年（一八六六）ニハ熊碓村字「ハシリ」ノ隧道ヲ村民開鑿シ即チ函館港ヨリ錢函村ニ達スル道路全通セリ 且ツ錢函村ヨリ札幌、千歳ヲ經テ東海岸勇拂ニ達スル新道モ曩（さ）キニ開通シ交通ノ便昔日ト同一視スベカラズ

## 漁網改良 一

網筈建網ノ事ハ第二期藩政時代漁網改良ノ部ニ記載セシカ、安政三年（一八五六）古平郡群來村秋元金四郎ノ漁夫、木材ヲ以テ枠ヲ組ミ水面ニ浮ベ、之レニ網ヲ吊シ建網ニテ漁獲セシ鮭ヲ枠網ニ入レ後チ酌ミ出シ事ヲ發明ス 是レ吊袋ノ起原ニシテ風波アルモ鮭ヲ放棄スルノ損害ヲ免ル、ニ至レリ 而

ルニ梓網ハ喧騒ニシテ鯡ノ群來ニ妨害アリシガ、安政四年（一八五七）全村ノ白岩八右衛門吊袋ヲ漁船ニ吊ス事ヲ發明シ喧騒ノ缺点ハ此ノ發明ニヨリ除去スルニ至レリ、爾來筧網ノ使用ハ減ジ建網ヲ專ラ使用スルヲ得タレバ統數増加、隨テ收穫モ増シ各郡繁盛ノ一要素トナリ鯡絞粕製造モ頓ニ増加セリ而シテ角網ノ發明ハ積丹郡岬村ノ齋藤彦三郎ナリ

この項の「網」は一部「網」と記載されており、編集子により「網」に統一した。

## 漁業

漁網ノ改良、建網筧網使用ノ禁及移民ノ増加ハ漁業ノ進歩ヲ促シ鯡絞粕製造興リ商賣モ開店シ各地ニ小市街ヲ形成スルニ至レリ、且天保四年（一八八三）小樽ノ身欠鯡百石金百六拾兩、絞粕百石金九拾兩ヨリ百十一兩ノ相場ニナリシニ慶應三年（一八六七）ハ身欠鯡百石四百五十兩トナリ絞粕ハ百石四百兩ニ昂騰シ天保四年ノ相場ニ比シ約ネ三四倍ノ價格トナリ漁業家ハ次第ニ富有ニ赴ケリ、而シテ各郡鯡ノ收穫高ハ知ルニ由ナスト雖モ・・・以後記述なし

当時ノ漁業家 記述なし

朝里村鯡收穫高表 記述なし

## 第二期幕政時代

## 温泉

安政四年（一八五七）小樽郡朝里村大字張碓在住葛山幸三郎全村ニテ鑛泉ヲ発見シ、煖メテ浴場トセリ

## 寺小屋

明治元年（一八六八）以前、熊碓村ニ於テハ渡邊太兵衛ナル者、寺小屋流ノ學校ヲ開設シテ教授セリ

## 農業

安政五年（一八五八）ニハ葛山幸三郎小樽郡張碓村ニ土着シ農夫数名ヲ置キテ開墾シ以テ水田ヲ試作シ是レ九郡ニテ水田ヲ開キシ矯失（ママ、嘴矢か）ナリ 又全所ニ水車ヲ造リシト云フ 然リト雖モ漁業ヲ專業トシ其ノ成績顯ハレズ 大根其ノ他ノ漬物スラ福山其他ノ地方ヨリ購求セリト云フ 以テ其ノ盛ンナラザルヲ知り得ベシ

## 商業

漁業者定住スルニツレ日用物品販賣ノ必要ヲ生ズ 藩政時代ニハ商業ヲ禁シ請負人ノ獨占業タリシカ幕府此ノ禁ヲ解キ各自商業ニ従事スルコトヲ許スタレバ各地ニ開店起コリ益々發達スルニ至レリ

## 長崎俵物

長崎俵物ハ往時鮑、煎海茸ノ二品ナリシガ昆布及鰯（するめ）モ長崎俵物トナリ人民相對賣買ヲ禁ジ其ノ取締ヲ嚴重シ居タリシガ、函館開港場トナリ密交易行ハレ到底之ヲ防グ能ハザレバ慶應元年（一八六五）ヨリ各自自由ニ賣買スルヲ許スニ至レリ

漁業 前ページ漁業と同文且つ中途までの記述であり、省いた

## 寺院

寺院ハ安政二年（一八五五）以前後志國九郡内ニ一寺ノ建立ヲ見ズ 蓋シ人ガ己レノ祖先ヲ祭ルハ人倫ノ基ナリ 且戸口ノ増殖ニツレテ葬祭ノ必要生ズルハ自然ノ趨勢ナルヲ以テ、**神社奉行酒井若狭守**ハ獵業差支ナキ所ニ寺院建立ヲ許スト達シケレバ、安政年間ヨリ九郡内ニ創立ノ寺院總數十五ヶ寺ニ達セリ 是移住奨勵ヨリ成ス結果ニ外ナラズ 而シテ我朝里村ニ於ケル其ノ最モ**古キ**寺ハ熊碓村ニシテ今表ヲ以テ示セバ左ノ如シ

所在郡名

所在町村名

建立年月

宗派

寺院名

要領

小樽郡

熊碓村

文久三年四月

浄土宗

長昌寺

初メ觀音堂ト稱ス

而シテ明治十七年

長昌寺ト改稱ス

## 幕府ノ政權奉還

而シテ其ノ後ハ後志國九郡ノ發達ニシテ日本全國ノ大勢ハ一大革命ヲ包含セリ 万延元年（一八六〇）幕府ノ大老井伊直弼、櫻田門外ニ於テ刺客ノ爲ニ倒レ文久二年（一八六二）老中安藤信正ハ坂下門ニ要撃セラル 是下田條約ノ反動トシテ鎖港攘夷ノ結果ナリ 斯ク徳川家ハ日二月ニ衰ヒテ尊王倒幕説起リ長州征伐ノ失策ハ端ナクモ導火線トナリ、慶應三年（一八六七）十月十四日徳川慶喜大政ヲ奉還センコトヲ請ヒテ許可セラレタレバ幕府ハ亡ビ茲ニ王政復古明治維新ノ照世ニ遷徒シ文明ノ潮流ハ千

里一瀉、蝦夷ガ千島ヲ洗セテ一新機軸ヲ開カントスルニ至レリ 祝セザルベケンヤ

## 明治時代

### 開拓使ノ設置

徳川慶喜政權ヲ奉還セシト共ニ封建制度ハ瓦解シ明治維新ノ新天地トナリタリ サレド北海道ハ海陸ノ交通不便ニシテ移民ハ纒カニ海岸ニ沿ヒ漁業ヲ營ムニ過ギズ 且薩哈連寫ハ日露ノ雜居地ナレバ一日モ忽緒(ゆるがせ)ニスベカラザル北門ノ鎖鑰(さやく)タリ 加フルニ海陸産物ニ寶庫ナレバ、明治元年(一八六八)三月ニ今上天皇陛下ニ岩倉具視等ヲシテ議事局ニ於テ蝦夷開拓ヲ議セシメラレ衆各意見ヲ具狀ス 四月函館裁判所ヲ設置シ全寫ノ中央政廳トス 五月函館奉行杉浦勝誠、土地、人民、金穀、凶書、器械ヲ収メテ井上岩見ニ致シ、尋テ函館裁判所ヲ廢シテ函館府ヲ置キ又之レヲ改メテ函館縣ト改稱ス 而シテ明治二年(一八六九)七月八日函館縣ヲ廢シ開拓使ヲ新設シ署ヲ民政部省中ニ置キ鍋寫直正ヲ長官ニ清水谷公考ヲ次官ニ輔シ八月蝦夷ヲ改メテ北海道ト稱シ十一國八十六郡二分チ初メテ國郡町村名ヲ附スルニ至ル

### 維新革命ノ餘波

函館裁判所設置ノ時小樽信香町勤番所ニハ幕府ノ定役伊澤兵九郎、平田彌十郎、同心小茂田直次郎、高橋耕平、足輕中島中之助詰合未ダ新政府ノ官吏ト交代セズ 是レヨリ先鳥羽、伏見、上野ノ變ニ次

ギ東北諸州ハ徳川家ノ勢援トナリ方ニ干戈ヲ動カサントスルノ際ナレバ、民心疑懼、歸依スル所ヲ知ラズ。此ノ時ニ当リ小樽地方ノ悪徒花屋忠兵衛、下國雷藏、傷金等巨魁トナリ漁民ヲ驅ツテ勤番所ニ迫マリ、陽ニ明治政朝ノ制札ヲ掲出セシメシ事ヲ名トシ、陰ニハ勤番所ノ財貨ヲ掠奪セント企テ錢函村ニ赴キ漁民ヲ募リ張碓、朝里、熊碓三ヶ村ノ漁家ニ就キ應援ヲ強ヒ、拒マバ家屋ヲ破壊セント脅迫ス。漁家ハ本意ナラズモ尾従ス小樽ニ着セシハ明治元年四月四日ニシテ總員數百名ニ及ブ。是ヨリ勤番所ニ押寄セ門ヲ毀シテ侵入シケレバ二名ハ刀鎗ノ爲メニ斃サレ傷金ハ銃丸ノ爲メニ負傷ス。素ヨリ碓固タル目的及一致ヲ缺ケル鳥合ノ衆ナレバ皆四散シ亦一人ノ加盟者ヲ見ズ。躑(めぐつ)テ石狩ヨリ調役日野勞助十數名ヲ帥ヒ巨魁ヲ捕縛セントス。彼等ノ屯所ニ就キ搜索セシモ既ニ遁逃セリ。茲ニ於テ民意ニ從ヒ制札ヲ掲出シケレバ巨魁等ノ目的ノ一部ハ達セシガ如シト雖モ終ニ縛セラレ年ヲ越ヘ勝納川沿岸ニ梟首セラレ(小樽内騒動)。而ルニ東北諸國ノ戰乱ニ次ギ明治元年十月榎本釜次郎(武揚)函館ヲ侵シ十二月ニ至リ彰義隊十數人及一小隊ノ兵小樽ニ屯在シ屢々民家ニ迫リテ金品ヲ掠メ婦女ニ侮辱ヲ加ヘシ如キ暴行ヲナセシガ明治二年五月函館ノ乱ハ鎮定シ尋テ小樽ノ殘黨ハ官軍ニ逐ハレ平定ス。斯ク維新革命ノ餘波延ヒテ小樽港ニ及ヒ一時無政府タリシ觀アリシノミナラズ、戰爭ノ爲メ運輸ノ便ヲ杜絶シタルガ爲メ米穀雜貨欠乏シ其ノ價格非常ニ暴騰シ一時米一石貳拾兩、阿波産烟草四十匁入一分ニ騰リ市民ハ應ニ飢餓ニ瀕セリ。サレド兵部省員函館ヨリ米穀ヲ輸シ一時ノ急ヲ救ヒ、且政府モ全道本年ノ租稅ヲ免除シケレバ皇恩優渥ナルニ咽ヒ各々業務ニ精勵セリ。

註 小樽市史には「定役伊澤兵九郎、平田弥十郎、同心菰田直次郎、高橋真平、足輕小島忠之助」とある。制札リせいさいつ、禁制・禁札・制符とも。禁令の個条を記し、路傍や寺社の門前・境内などに立てる札。

## 兵部省

文化四年(一八〇七)近藤重藏ノ意見トシテ高寫ハ雄鎮ノ地ナリ 衛所ヲ置カントノ建議ハ行ハレザリシガ、明治二年(一八六九)九月高寫、小樽、石狩三郡ヲ兵部省ノ管轄トス サレド同三年正月兵部省ノ直轄ヲ解キ開拓使ノ管理ニ歸ス

### 行政事務

明治二年(一八六九)十一月判官島義勇小樽郡錢函村ニ來リ民家ヲ僞シテ仮役所ヲ設置シ札幌ニ治所ヲ開キタルモ後大學少監ニ轉職ス 茲ニ於テ判官岩村通俊之ニ代リ明治三年三月札幌ノ治所ヲ中止シ同時ニ錢函村仮役所ヲ廢シ小樽仮役所ヲ信香町舊收納會所内ニ創設シ庶務、金穀、營繕、用度、刑法、病院ノ各係ヲ置キ後志石狩二國ノ内十郡ヲ總轄セシガ、同年十二月ニ至リ西村貞陽ノ稟議ニ基キ札幌治所ヲ再興スルコトトナリタリ サレド四年六月ニ至ルマデ諸願伺ハ舊ノ如ク小樽ニ於テ取扱ヒ各地ヨリ往復シケレバ猶西部ノ中央政廳タル感アリシガ、全年同月小樽仮役所ヲ小樽出張所ト改稱シ高寫小樽二郡ヲ管轄スル一政廳トナリ同年六月小樽出張所ヲ小樽詰所ト改稱ス 而シテ翌年四月小樽詰所ヲ小樽分署ト改稱ス

### 埠頭

明治拾二年(一八七九)九月ニハ錢函村ニ木製荷揚場ヲ築造ス 長二十間此ノ工費三千三百七十四円餘ナリ

### 道路

明治五年(一八七二)五月小樽市街ヨリ錢函村ニ達スル道路ノ開修ニ着手ス 翌六年十二月竣工、此ノ延長六千六百〇九間、工費二万〇八百十七圓餘 且札幌郡下手稲村ニ至ル道路ヲ開鑿シ、即チ札幌間交通ノ便開ケタリ 明治七年十月若竹町熊碓村間海岸新道、幅三間長百七拾三間、石垣築造九拾七

間隧道長拾六間ヲ開鑿ス 此工費二千五百九拾七間(ママ、圓か)餘 而シテ小樽錢函間車道ハ同年四月起工シ十一月工ヲ竣ル 此ノ工費四万四千〇四拾八圓ヲ消費シ完全ナル車道トナリタリ 其ノ工事ハ米人クローフォルド擔任セリ

## 陸運

維新前ハ運上屋番屋ニ於テ驛通業ヲ兼ネシモ小樽郡ハ慶應元年(一八六五)請負人ヲ廢シ翌年十一月運上屋及本陣、番屋ヲ脇本陣ト唱ヒ旅客及驛通業ヲ營メリ 明治三年(一八七〇)九月手宮町ノ驛通所ヲ止メ、錢函村ニ新設シ明治五年(一八七二)九月小樽貫目政所ヲ錢函村ニ移セシガ明治十年(一八七七)ニ至リ之ヲ廢セリ 而シテ各驛通業者ニハ開拓使補助金ヲ給セリ 明治八年ノ一例ニヨレバ小樽ハ金二百圓錢函村金百四拾圓ヲ補助セリ 且十ヶ年賦ニ駄馬ヲ拂下ケシコト等アリテ專ラ保護ヲ盡セリ 嘗テ黒田清隆露國ニ航シ馬車、馬櫓及ビ馬四頭ヲ購入シ札幌(樽か)間ノ陸運ヲ改良センタメ明治十二年(一八七九)車馬道ヲ開通シ陸運改良係出張所ヲ小樽及錢函村ニ設置シ厩及休泊所ヲ建テ從前駄送ノ不便ヲ改良シ馬車馬櫓ヲ用ヒシヨリ運賃低廉且ツ迅速ナルヲ以テ陸運ノ便頓ニ一變セリ 然レド明治十三年ヨリ起工セシ鐵道ノ開通スルニ至リシヲ以テ此ノ利便ハ僅カノ歲月間ニテ消滅セリ

## 郵便

後述しているため削除

## 教育

維新前ヨリ寺子屋的教育ニ従事シタルモノハ熊確ノ渡辺太平治、錢函ノ久家亮功ニシテ明治時代ニ至リテモ引續キ教授セリ 然レドモ住民ノ多数ハ漁夫ニシテ教育ノ何タルカヲ解スル輩稀ナリケレバ學齡兒童ニシテ就學セザル者多カリケリ 七年(一八七四)錢函村ニ教育所ヲ設立セリ 而シテ同年朝里、張碓、熊碓ニ各々教育所ヲ創立ス 而シテ教育所ナル名稱ハ明治十年(一八七七)之レヲ廢シ某

學校ト改稱シ、而シテ前記四校ハ量徳ノ分校ニ附屬ス

註 熊確ノ渡辺太平治、錢函ノ久家亮功は空欄であつたので加筆した。亦、七年とあるが、北海道史や後述の熊確、朝里小学校の沿革によつても、朝里教育所の開設は明治九年十一月、熊確教育所は明治十年とある

#### 町村ノ事務 戸長役場 總代人

慶應元年（一八六五）小樽ヲ村並トシ同時ニ名主年寄ヲ置キシガ明治三年（一八七〇）町名ヲ附ス小樽市役所（ママ、小樽仮役所または町会所か）ヲ設置シ大年寄、中年寄、町代ヲ置キ大年寄ハ苗字刀劔、乗鞍使用ノ特權ヲ有シ、中年寄ハ片腰ヲ帶スルノ特許アリ 村ニハ頭取及百姓代ヲ置キ現今ノ戸長及總代人ノ職務ヲ兼掌セシガ、明治五年（一八七二）四月此等半官半民ノ職制ヲ廢シ戸長、副戸長ヲ設ケ、戸長事務所ヲ新設シ而シテ小樽郡ハ戸長一名副戸長四名ヲシテ官給セシメ純全タル官吏トナシ而シテ別ニ總代人ヲ置キ市民ヲ代表シテ行政事務ニ參與スルニ至リシガ總代人ノ職權ヲ規定セシハ明治十一年（一八七八）ニシテ撰者、被撰者ノ資格ヲ定メ漸々自治ノ端緒ヲ得タルガ如シト雖モ一班ノ利害得失ニ関スル事項ハ官廳之ヲ議事ニ附セザレバ干渉スルノ權利ヲ有セズ 明治十二年（一八七九）十一月戸長事務所ヲ戸長役場ト改稱セリ

#### 地租及地價 記述なし

#### 移民 記述なし

#### 浦役場

明治十年（一八七七）三月朝里村ニ浦役場ヲ創置シ戸長總代人町村關係ヲシテ兼勤セシメ難破船ノ取扱、船舶ニ関スル人民ノ願届及代書ヲ辨シ船主貨物ノ賣買ニ斡旋シ奸商ノ術中ニ陥ルヲ防ギタリ

### 土地所有權

維新前總テ土地ハ單ニ借用地ニシテ所有權ヲ附與セザレバ、開墾スル念慮ヲ起コサザリシト云フ  
明治四年（一八七一）九月政府ハ宅地及耕地ノ所有ヲ許シ人民相互ノ貸借地ニ家屋ヲ建築セシ地ハ其建築所有者ノ所有ニ歸セシメタリト雖モ本籍人ニ限り寄留者ニハ之ヲ許サズ 且ツ漁場ハ本籍寄留ヲ問ハズ借地スルニ止マレリ 明治五年（一八七二）九月ニ至リ漁場及牧場ノ所有權ヲ移スノ規定ヲ設ケシモ是レ亦本籍人ニ限レリ 明治八年（一八七五）一月札幌農學校教頭米人ケブロン建議シテ曰ク漁場出稼人ヲシテ土着セシムルハ拓殖上專要ナリト縷述シ明治九年（一八七六）地券發行條例トナリ總テ土地ハ本籍寄留ヲ問ハズ所有權ヲ附與スルニ至レリ 之ヲ要スルニ土地ノ所有權ヲ得セシムルト然ラザルトハ社會ノ進否如何ニ関スル大ナリ 北海道如何ニ生産物ニ富ムモ土地ノ所有權ナクンバ故郷墳墓ノ地ヲ去ツテ移住ヲ企ツルモノアランヤ故ニ明治九年（一八七七）ハ移住者ヲシテ土着ノ念ヲ惹起セシメタル記憶スベキ年ナリ

### 貸與米

既記ノ如ク冬期ニ際シテハ運輸ノ途、杜絶シ米價常ニ暴騰シ往々欠乏ヲ告グルノ故ヲ以テ開拓使創設以來小樽ニ倉庫ヲ設ケ米ヲ貸與セリ 明治五年（一八七二）ヨリ一分ノ利子ヲ附ス 海産物ヲ以テ返還スルノ便宜ヲ與ヘシガ、明治十一年（一八八五）ヨリ通常賣下ヲ廢シ凶歉又ハ米價昂騰ノ時ニ限り臨時賣下ゲノ方針トナリタリ 之ヲ要スルニ明治八年（一八七五）以來海運業梢（やや）開ケタルヲ以テナリ

註 凶歉（きょうけん）、農作物の出来が不良なこと、凶作

### 漁業ノ保護及漁業税

漁業税ハ維新前ト異ナラズ、然ルニ明治三年（一八七〇）四月鯡漁業税ノ五分ノ一ト改メ同年十月ニ至リ西部地方ハ二割トセリ 其ノ他水産物ノ種類ニヨリ差等アリ 且屢々変更アリテ繁雜ニ涉ルヲ以テ之ヲ畧ス 而ルニ漁業家ハ元仕入金及漁夫給金ニ乏欠ヲ來シ漁業ノ發達ニ影響スルコト尠カラザレバ開拓使ハ明治四年（一八七一）小樽、高（たか）二郡ニ金二千五百両（ママ、圓か）ヲ貸與シ水産物賣却ノ後一分ノ金利ヲ元金ニ附シ返還ノ法ヲ設ケ新開ノ漁場ハ明治七年（一八七四）ヨリ現品税及地租ヲ五ヶ年間免除ノ特典アリ 又同年小樽外四郡ニ金三万八千圓ヲ貸與セリ 明治九年（一八七六）四月安政年間定メタル建網一統ノ冥加金三円ヲ廢セリ 明治十年（一八七七）十二月海産物ノ種類ニヨリ解散干場ノ地積ニ制限ヲ定メタレバ既往ニ比シ多数ノ人ヲシテ漁業ヲ營ムノ便益トナレリ 当時漁業家ニシテ資本乏シキモノ個人貸借及産物折ニヲ合算スレバ一ヶ年金百円ニ對シ五拾九円乃至六十四円ヲ資本主ニ支拂ハザルベカラズ 依而開拓使ハ明治十一年（一八七八）ヨリ建網一統ニ付キ金三百円ヲ限トシ一割二分ノ利子ヲ附シ財産ヲ抵當トシ成ルベク資本薄弱ナルモノニ貸與スルノ方針ヲ採リシカバ漁業家ハ是等ノ保獲（ママ、護か）ニヨリ事業ヲ拡張スルヲ得タリト雖モ漁業税ノ重キト現品納メルタメ無益ノ手数ヲ要シ頗ル事業ノ進涉ヲ妨ゲタリ

### 郵便

明治五年（一八七二）十月小樽郡錢函村（此ノ外小樽港）ニ郵便局ヲ創設シ明治六年（一八七三）八月ヨリ書留郵便及別配達郵便物取扱ヲ開始セリ 明治十二年（一八七九）一月ヨリ郵便爲替（ママ、替か）取扱ヲ始メタリ

## 住吉神社ノ發立

明治三年（一八七〇）十月函館八幡神社神官菊地乘賢、判官島義勇ノ手ヲ經テ神祇官ノ点檢セシ神体墨江神社ニ合祀シ、明治八年ヨリ郷社ト公称シ、例年七月拾五日大祭ヲ執行スル事トセリ 是今ノ住吉神社ナリ（明治二十五年一月九日黒（ママ、墨の誤りか）江神社ヲ住吉神社ト改称）

## 小樽市街

安政二年（一八五五）徳川幕府直轄ノ時ヨリ勝納川沿岸地ハ小樽ノ中心トナリ最モ繁華ノ街衢（がいく）トナリ稍（やや）市街ノ体裁ヲナセシモ、慶應元年（一八六五）單ニ村並トナリシノミニテ未ダ町名ナカリシモ、明治三年（一八七六）四月新ニ小樽郡ニ町村名ヲ附セシハ山ノ上、信香町、企裏町、若竹町、金曇町、芝居町、土場町、勝納町（抜けており追加）、新地町ノ九カ町、及熊碓村、朝里村、張碓村、錢函村ノ四ヶ村ニシテ、高島郡ハ色内村、手宮村、高寫村、祝津村ノ四カ村ニ分割命名シ、明治四年（一八七七）小樽郡ニ開運町ノ一カ町ヲ増加セリ 明治五年（一八七二）ニハ有幌町、量徳町、永井町、入船町、港町、潮見台町、龍徳町、若松町ノ八ヶ町ヲ新設シ、明治六年（一八七三）ニハ堺町、新富町、眞榮町、高砂町ノ四カ町、明治七年（一八七四）ニハ川原町ニシテ及奥澤村ノ新設アリ 即チ小樽郡ハ二十三ヶ町四ヶ村 高寫郡ハ四ヶ町ニシテ未ダ町名ナシ 而シテ高寫郡ノ色内町、稻穂町、手宮町、手宮裏町ノ新設アリシハ明治十四年（一八八一）大火災ノ後ナリ 且住初町、相生町、入船町、開運町ニハアイヌ散居シ、人力車ハ明治九年（一八七六）ニ二台輸入セシノミニシテ現今ニ比セバ甚ダ幼稚ナル市街ナリキ

## 劇場

然ルニ劇場ハ明治元年（一八六八）芝居町ニ星川座、同六年ニハ永井町ニ末廣座ノ建設アリタリ

## 大雪及出水

明治拾二年(一八七九)ハ未曾有ノ大雪ニシテ同年二月二十三日ハ殊ニ風雪烈シク此レガタメ民屋積雪ニ埋没破損セリ 身ヲ脱スル途ナク死傷セルモノ数多アリ 又春期ニ至リ降雨連日ニ涉リ其ノ損害尠カラザリケリ

## アイヌノ滅亡

明治二年(一八六九)以來アイヌ風俗ノ改良、衛生、教育、職業ニ対シ開拓使ハ保護ヲ加ヘルニ係ラズ 益々減少ノ傾キアリ 明治二年小樽郡ニ六戸十三人アリシガ明治十四年(一八八一)ニハ三戸五人トナリ全十五年、後他ニ轉居シテ一人ノアイヌヲ見ズ

## 時代ノ性質 記述なし

# 鉄道開通時代

## 郡役所

明治拾二年(一八七九)二月小樽分署ヲ廢シ同年七月、小樽、高崙、忍路、余市四郡ヲ管轄スル郡役所ヲ信香町ニ設置シ、明治十三年三月開廳セリ 明治二十二年(一八八九)一月ニ至リ古平、美國、積丹ノ三郡ヲ小樽外三郡役所ニ合併シ七郡役所トナリタリ

## 戸長役場

明治十六年(一八八三)三月ニハ朝里村ニ戸長役場ヲ創設ス 而シテ明治十九年(一八八六)ヨリ朝

里外三ヶ村戸長役場ヲ除キ小樽郡役所ハ高崙、小樽各町村ヲ直轄セリ

### 警察署

明治十五年(一八八二)三月小樽警察分署ヲ小樽警察署ト改稱シ、明治十七年一月ヨリ巡查携帯ノ棒ヲ止メ帶劔スルニ至レリ 又明治十八年(一八八五)八月ニハ錢函村ニ巡查駐在所ノ設置アリ

### 廃使置縣

明治十五年(一八八二)二月八日開拓使ヲ廢シ全道ヲ三分シ札幌、函館、根室ノ三縣ヲ置キ、調所廣丈札幌縣令トナリ小樽高崙ハ札幌縣治ニ隸屬セリ 明治十四年ハ民業モ稍緒ニ就キシヲ以テ自治ノ基礎ヲ鞏固ニシ獨立進取ノ氣象ヲ養成センガ爲メ縣政ヲ布クニ至レリ サレド北海道三縣下ニハ他縣ノ如ク縣會アルニ非ズ 現今ト等シク微弱ナル權利ヲ有スル町村總代人市民ノ代表スルニ止マレリ

### 移民 記述なし

### 廢縣置廳

明治十九年(一八八六)一月、三縣及管理局ヲ廢シテ北海道廳ヲ札幌ニ置キ司法大輔岩村通俊長官トナル

### 土地ノ租稅

明治十八年(一八八五)七月一日ヨリ施行ノ地方稅徵收法ニヨリ地租割ハ地租額ノ五分ノ一ヲ課シ、他府縣ヨリ移住シ農桑ノ業ヲ營ムモノハ滿三ヶ年間除稅ノ特典ヲ設ケ、明治十九年六月閣令第十六號ヲ以テ北海道土地拂下規則ヲ定メ一戸十萬坪以内ヲ貸付シ十ヶ年以内ニ墾成セシメ墾成ノ翌年ヨリ千

坪ニ付金一圓ニテ所有權ヲ有シ地租ハ保護時代ニ定メタル同額、即チ地價百分ノ一ヲ墾成後二十ヶ年間除租シ、又明治二十二年（一八八九）六月二十九日法律第十八號ニヨリ北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租及地方稅ヲ免除ス其ノ現ニ開墾中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尚ホ十年間地租及ビ地方稅ヲ課セントテ專ラ移民ヲ保護シ土地ノ開發ヲ圖レリ

### 鐵道關係

往古ヨリ石狩河口ハ樞要ナル位置ヲ占ムルト認定セラレ、当地方ヲ所轄スル勤番所アリ 明治八年（一八七五）以來空知郡幌内炭山採掘ノ石炭ヲ運出センタメ幌内炭山ヨリ幌内太マデ鐵道ヲ通ジ石狩川ヲ利用セントス 然ル二十二年（一八七九）八月米國土木師クローフォールド幌内太ヲ以テ鐵道ノ終端トスルノ不同ヲ唱ヘ江別、札幌、錢函ヲ經テ小樽港ニ及ボシノ利アルニ如カスト建議セシ 其畧ニ曰ク

小樽手宮ハ風浪ヲ避クルベキ地形ニシテ石狩川ノ本流ニ從ヒ運輸セントスルノ策ハ鐵道ヨリ直チニ手宮港ニ輸スルノ便利ニ如カズ 誠ニ其ノ一二ヲ舉クレバ、第一水路ニ要スル汽船修繕費ヲ省クベシ 第二再三車船積替ノ爲ニ石炭破碎減耗ノ虞ナシ 第三春秋出水ノ為メ運搬時日短縮ノ不便及ビ屈曲甚タシキ航路ニ避ケ難キ不慮ノ災害ナシ 第四一ヶ年間掘採ノ石炭ヲ夏季中ニ輸出シ尽シ得ズシテ多量ノ石炭貯藏ノ不利ナカルベシ 第五軌道ヲ手宮棧橋上ニ接續セシメ石炭ハ勿論其ノ他百貨皆車ヨリ直チニ大船艙中ニ納ムルノ便ヲ得、且鐵路用器械其ノ他重量ノ物品ハ皆鐵道敷設進度ニ依リ隨テ築ハ隨テ運ブヲ以テ大ニ運輸ノ費ヲ減ズベシ 第六札幌小樽間毎年十一月末ヨリ四月迄積雪中ハ殆ント往來ヲ絶ツノ道路ニシテ定期ノ運搬ヲ得セシメ且其ノ官民輸出入及乘客運賃ハ悉ク石炭運送費減少ノ助トナルベシ 昨年調査統計表ニ依ルニ札幌小樽間運送荷物ノ總高ハ八万五千八百十石、即チ一万二千八百七十屯ニシテ概

ネ皆馬ヲ以テ悪路ヲ駄送スルガ故ニ其ノ運賃六万〇六百四十二圓ノ巨額ニ上レリ 即チ同港ヨリ幌内ニ達スル鐵路経費ヲ償フニ足ルモノニシテ間接ニ地方公益ノ利僅少ナラザラルベシ

茲ニ於テ石狩川利用ノ方針ヲ變更シ幌内小樽間ニ鐵道ヲ通ゼシ為河口改良費金三十万圓ニ二万圓ヲ足シ明治十三年一月ヨリ工事ニ着手シ同年十一月手宮ヨリ札幌ノ間二十一哩六十八鎖二十六輪ノ工事竣工シ同月二十八日運轉式ヲ舉行セリ

### 停車場

十四年朝里村ニ停車場ヲ開設シ(ママ、スカ)

註 哩一マイル(約一、六キロメートル)、鎖二チェーン(約二〇、一メートル)、輪二リング(チェーンの百分の一)

### 北有社

明治二十一年(一八八八)六月、村田堤等、手宮町ニ資本金三十万圓ヲ以テ北有社ヲ設立シ官設鐵道運輸請負ヲ始メシガ農産物ハ従前ノ如ク無賃運送シ、錢函小樽間ノ鯡鮫(ママ、絞か)粕ハ定則運賃ノ五割ヲ減ジテ運送セリ

### 北海道炭鋳會社

然レド明治二十二年ニ至リ徳川義禮(侯爵)、奈良原繁(日本鐵道社長)、澁澤榮一(第一國立銀行頭取)、盛岡昌純(日本郵船社長)、原六郎(横浜正金銀行頭取)、高島嘉右衛門(高島易断の開祖、実業家)、小野義眞(日本鐵道會社副社長)、吉川泰二郎(三菱)、田中平八(田中銀行頭取)、園

田實徳、下村廣敏、北村英一郎、堀基（薩摩閩、黒田清隆首相の子分、永山武四郎の上司）ノ十三名  
發起シ鐵道拂下ヲ出願、許可ヲ受ケ資本金六十五万圓ヲ以テ北海道炭礦鐵道會社ヲ組織ス 政府若干  
ノ補助金ヲ給シ現今ニ及ベリ 乗客賃ハ明治二十三年ヨリ上等七十八錢、中等五十五錢、並等三十二  
錢トナリ 往復度數ハ一日三回トナレリ 之ヲ要スルニ、クローフォルドノ建議ノ實行ハ實ニ小樽発  
達ノ一大原動力トナリシハ識者ヲ俊タリシヲ知ル

### 漁業資本金

開拓使ハ明治ノ初年ヨリ漁業資金ヲ貸與シテ漁業ヲ奨勵シ金融ヲ助ケシガ、明治十三年（一八八〇）  
以後猶一層ノ便益ヲ圖リ、鮭、昆布等ノ收穫物又ハ魚具等ヲ抵当トシ貸付法ヲ設ケシガ、水産稅輕減  
及出港稅金ヲ廢セリ 且銀行ノ設立其他資本流通ノ途開ケタレバ明治二十年（一八八七）ヨリ廢止シ  
從前ノ貸與米ハ棄損セリ

### 漁業ニ関スル會社

明治十四年（一八八一）札幌支店ノ漁菜會社、入船町ニ起リ同年北辰社起リ資本金二千円ヲ以テ、本  
道開墾漁獵ノ勞働者ヲ周旋スルヲ本務トセリ 明治十六年（一八八三）ニハ北海道雇入保護會社及共  
益社ナルモノ生ズ 二社共ニ漁業被雇人ノ惡弊ヲ洗滌シ、雇入及被雇人相互ノ便益ヲ圖ルノ目的ヲ以  
テ、前社ハ資本金五万円、後社ハ六万円ヲ以テ組織セリ 又明治廿三年（一八九〇）ニハ魚介會社ノ  
設立アリ 魚介ヲ販賣スルヲ以テ目的トセリ 同年北海道漁業捨収會社、海産物捕獲及製造業ヲ始ム  
然レド此等諸會社ハ次第ニ廢業ス現存セズ

### 水産品評會

北水協會水産品評會ヲ明治拾八年（一八八五）八月二十一日小樽港ニ開催シ同二十六日閉會 其ノ出

品數ハ五百四十四品ニシテ褒賞ヲ得シモノ一等賞三人二等賞十人三等賞三十二人褒狀五十一人アリケリ

### 漁業組合

明治十九年(一八八六)小樽高崙二郡ニ各漁業組會ヲ設立セシガ、明治二十三年(一八九〇)ニヶ所ノ漁業組合ヲ合併シ、小樽高崙漁業組合トナリタリ

### 漁業

水産物ノ豊凶ハ單ニ漁業家ノ喜憂ニ止マラズ即チ其ノ影響タルハ市況ノ振否如何ニ関シ、延(ひ)イテ八百事ニ波及ス 是レ毎歲漁獲スル金額ノ、他ノ産物ニ比シ巨大ナルヲ以テナリ 明治十三年(一八八〇)ハ鮭粕百石八百五十円ニ騰貴シ、翌十四年ハ六百三十円ノ相場ナリ 當時全國一般物價騰貴ノ時ナリシトハ云ヒ、サマデ連年ノ不漁ハ市況ニ大ナル影響ヲ及ボサマリシガ、明治十五年ヨリ同拾九年ニ至ル五ヶ年ハ既往ニ比シ收穫高増加セシト雖モ紙幣減縮ノ結果價格漸次低下シ漁業家ハ最モ困難ヲ窮メシ時ナリ 十五年ハ鮭鮫(ママ、絞か)粕百石五百七十圓内外ナリシニ同十七年ハ三百七十円、同十八年ハ三百円、同十九年ハ三百五十円ニ下落シ漁業ノ困難此ノ時ヨリ甚シキハナシ 剩(あまつさ)へ金融壅塞シ漁業資本拜借入金返納期及雇夫解雇期ニ要スル資金ニ缺乏ヲ告ゲ、時價ノ騰貴ヲ俟ツノ暇ナク止ヲ得ズ捨賣ヲナセシ参(ママ、慘か)況ナリシヲ以テ層一層ノ困難ヲ重ネタリ 然ルニ明治二十年ヨリ漸次物價平素ニ復シ、鮭鮫(ママ、絞か)粕百石同前半期相場六百六十円ニ騰貴シ歉漁ナルニ係ラズ無事ニ其ノ年ヲ経過セリ 翌二十一年ヨリ明治二十三年ニ至ル三ヶ年ハ相應ノ收穫アリ 且價直モ五百二十円以上六百七十円ノ間ヲ昇降シ、且明治二十年ヨリ水産税ノ輕減及出港税ノ全廢アリシヲ以テ、漁業家ハ往時ノ疲弊ヲ回復セリ

註 壅塞ニふさがること

### 水産税ノ輕減

縣政時代不景氣ノ頃ヨリ漁業家ハ頗ル困弊シ屢々水産税輕減ヲ主張シケルガ、明治十九年北海道廳トナリ長官岩村通俊水産税輕減ノ必要ヲ察シテ建議スル所アリ 當時井上(薰)外務大臣及山県(有朋)内臣親シク北海道ヲ巡視シ輕減ノ必要ヲ悟リ、從前ノ現品税ヲ金納トシ出港税ヲ全廢シ及漁業資本貸與金ヲ棄損スベキ旨ヲ稟議セシニ閱議ノ裁可スル所トナリ、明治廿年三月(一八八七)北海道水産税則ノ制定アリ 蓋し現品税ナル時ハ之ガ検査ヲ要シ、官民ノ手数出費ヲ要シ、検査ヲ經タル後各村ヨリ現品ヲ管轄官廳ニ輸送スルノ方法ナレバ、水産税一割乃至二割以外ノ出費ヲ要スルノミナラズ、時日ヲ空費スルノ不利益アリ 故ヲ以テ金納ニ改メ且税率ハ既往三ヶ年間毎ニ平均シタル收穫高ノ百分ノ五トシ從前ニ比セバ輕減セリ 今明治十五年ヨリ同十七年迄ノ全道平均舊税ハ一戸ニ付、金四拾二円五十老錢強ニ當ルモ、明治二十一年ノ改正新税ハ實際拾円七拾老錢ニシテ新税ノ輕減ヨリ漁家方重荷ノ負擔ヲ免レシ利益ノ大ナルヲ知ルニ足ル 加フルニ從前水産物ヲ輸出スルニ際シテハ更ニ出港税トシテ原價ノ百分ノ四ヲ納入セシモ是亦全廢トナリタリ 又此ノ改正ト共ニ漁業組合ヲ組織シ其事務所ハ水産税ヲ徵收シ漁業ニ関スル諸般ノ事務ヲ整理シ往時ニ比シ官民ノ便益大ナリ サレド此ノ水産税ナルモノハ北海道ニ限ル一種ノ税ニシテ他府縣ニ其ノ例ヲ見ズ 故ニ晩近ニ至リ漁業家ハ之ガ全廢ヲ主張シ其ノ運動ニ怠ラズ

### 小樽港灣ノ區域

明治十六年(一八八三)四月小樽港ノ經界ヲ朝里村字カムイコタンノ岬端ヨリ高寫村字厩岬ノ岬端ニ至ル直線以內ヲ港内ト定メシガ、明治二十三年熊碓村字平磯岬ヨリ高寫村字厩岬ニ至ル直線ヲ以テ小樽港内ト改定セリ

### 準備米

明治十三年（一八八〇）及同十四年ハ米價非常ニ騰貴シタルヲ以テ、開拓使準備米ヲ屢々拂下ケタリ  
サレド明治十六年一月以後ハ水火風震ノ災厄ニ遭遇スルカ又ハ輸入米ニ乏シク米價暴騰スルニ非ザレ  
バ拂下スト定メタリ 明治十七年四月手宮町ニ倉廩ヲ建築セシガ、明治廿三年準備米基金ハ北海道廳  
勸業委託金ニ編入シ缺減等ヲ處理シ町村備荒組合ヲ設ケシ際小樽高寫二郡各町へ備荒基本金トシテ五  
千〇七十五円拾八錢八厘ヲ下附セシヨリ爾來準備米拂下ノ事止ミタリ

### 鑛山

明治二十三年（一八九〇）ニハ小樽郡朝里村朝里川奥ニ俣川奥ニ於テ金銀鑛試掘ノ認可ヲ得タリ

### 鑛泉

明治十七年熊碓村及張碓ニ冷泉各一ヶ所發見セリ

### 道路其ノ他

人馬繼立所ハ保護時代ト均シク小樽市街及錢函村ノ二ヶ所ナリ 明治十六年（一八八三）一月小樽錢  
函村ヨリ余市岩内ニ至ル道路ヲ縣道三等ト定メタリ

### 商況 記述なし

### 談話會 記述なし

### 農業及耕地反別年別表 記述なし

植樹 記述なし

熊碓學校沿革誌

一、本校ハ北海道後志國小樽郡熊碓村中央ノ山山ニ在リ、位置ハ東朝里村ニ隣シ、西隨道ヲ以テ若竹町ヲ界トシ、北海ニ臨ミ、南山ニ接ス  
 明治九年（一八七六）地所ヲ献納シ、翌十年一月落成ス 敷地四百七十一坪、校舎四十貳坪ナリ 初メ教育所ノ名稱ニシテ、教員日森藏之助之ヲ擔任ス  
 全十一年九月、黒田長官殿本廳管下教育ノ進歩發達ヲ臨視セラレタリ  
 全十二年三月、再ビ開校ニナリ上島川兵衛職ヲ奉ズ 熊碓分校ト稱ス  
 全十四年二月、更ニ熊碓學校ト改稱ス  
 明治二十三年十月三十日、教育ニ関スル詔勅ヲ下附セラレタリ  
 明治三十年十一月三日天長節ヲト（ぼく）シ本校新築落成式ヲ舉行ス  
 明治三十一年六月四日後志國小樽郡熊碓村字山之上ニ於テ學林地畑三町三反一畝二十三歩無償付與ノ件許可セラル  
 明治三十七年三月三十一日北海道小樽郡熊碓尋常小學校訓導兼校長上寫川兵衛小學校令施行規則第二百六條第一号ニ依リ退職ヲ命ゼラル  
 明治三十七年三月小川章輔本校訓導拜命赴任セラル

族籍	姓名	職名	任免年月日	在職年月	要領
士籍	日森藏之助	訓導	明治九年十一月	二年四ヶ月	一時朝里分校ニ轉任シタル事聞キケリ
	上寫川兵衛	訓導	明治十二年三月	二十五ヶ年	
	中寫由松	助教員	明治十五年十月		

上寫ヒサ	代用教員	明治二十四年十月	十二年五ヶ月	熊確尋常小學校裁縫科教授ヲ囑托ス
小川章輔	訓導	明治三十七年三月		
入江男也	代用教員	明治三十七年三月		

### 朝里小學校沿革誌

抑モ本校設置區域朝里村ハ明治維新ヲ去ル拾年前即チ安政四五年ノ頃迄ハ場所ト稱ヒ（鯨漁スル計リニ用キル所トイフ意ナラン）檜山郡江差及近郷松前郡福寫村江良町村等漁家ノ所有漁場ニカブリ毎年陰曆春正月末鯨漁季近クニ至レバ（当今ハ鯨漁季陽曆四月初旬ナルモ昔時ハ如此シトイフ）漁具並ニ漁期間ノ食料ヲ漁船ニテ携ヒ來リ小屋ヲ結ビ茅舎ヲ修理シテ各自所有ノ漁場ニ住シ漁終レバ戸ニ戸ヲ閉ヂ木ヲ結ビ翌年漁季ニ至ル迄放擲シテ顧ミズ 漁具ヲ携ヒ收穫物ヲ運ビテ江差港ニ向ヒテ去リ販賣シテ郷里ニ歸ルヲ常トセリ 之ヲ以テ漁後ノ本村ハ唯番屋ト稱スルモノ一戸アリ 之レニ二三ノ番人留守シテ石狩へ通行スル旅人又ハ官用ヲ取扱フノミ

他ハ人跡絶テナク蓬草家ヲ埋メ熊鹿晝夜横行シテ狂暴ヲ逞クシ爲ニ番人ノ如キハ一町ノ行路ニモ磯船ニ乘リ沿岸ヲ渡レリトイフ之レ小樽港ノ開ケザル以前ニシテ日用ノ貨物賣買授受ノ途ナキヲ以テ居住スルモノナカリシナラン 爾後小樽港ノ開ケ不便ヲ感ゼサルト共ニ此等漁業家年ヲ追ヒテ移住シ來リ漸ク一村ノ端緒ヲ茲ニ始メテ形作ルニ至レリ後チ亦明治四年北海道ニ開拓使ヲ置カレ札幌ヲ創開スルニ至リ此ノ地札幌小樽間ノ要路ニアルヲ以テ年々歳々移民ヲ増シ戸數殖エ人口加ハリ漁足リ民豊カナレバ時勢ノ進歩ニ供ツテ教育ノ必要ヲ感ズ

明治九年初メテ当村拾七番地宅地間口十間奥行二十間此ノ坪數ニ百坪附属建家（平屋）間口五間奥行七間此ノ坪數三十五坪右所有主五十嵐助右衛門ナルモノヨリ總價金三百拾円ニ村費ヲ購ヒタリ

明治九年七月朝里村ノ用係龜谷藤次郎小樽全權北川誠一殿ニ朝里村教育所設立ノ儀ヲ願ヒ出デ同年八月許可セラレ前記地所建物之ヲ當時ノ朝里教育所ニ寄附ス以テ朝里村十七番地ニ開設セリ是レ當小學

校ノ創メナリ

当時ハ明治五年ノ學制ニ基キ二等ニ分ケ一ヲ上等トイヒ一ヲ下等トイヒ上下兩等修業年限各四ケ年トス

明治拾年九月教育所ノ名ヲ癡セラレ同時ニ小樽量徳學校ニ合併セラレテ朝里分校ト改稱ス  
今茲ニ明治九年七月以降ノ教員ヲ表記スベシ

族籍	姓名	職名	任免年月日	在職年月	要領
	東野義秀	教員	明治九年八月	一ケ月	東野義秀辭職セシニヨリ全時ニ熊確教育所教員日森藏之助兼勤ヲ被命
	日森藏之助	教員	全年九月		
	野村鈴太郎	教員	全年十月	三ケ月	
	新田太助	教員	明治十年一月	二ケ月	
	齋院弥八	教員	明治十年二月	一ケ月	小樽教育所ニ轉ズ
	東野義秀	教員	明治十年二月	八ケ月	再任セラル
	日森藏之助	訓導	明治十年拾月	九ケ月	東野義秀教授法講習ノタメ量徳學校ニ入り熊確教育所ノ日森藏之助又兼務ス
	小笠原富之輔	助教員	明治十四年四月	八ケ月	
	宋戸悌吉	訓導	明治十八年九月二日	四ケ月二十二日	
	奥 榮吉	仮教員	明治十九年一月二十二日	一箇月十七日	
	小貫忠造	訓導	明治十九年三月十六日	一年三ケ月	
	町田外也	訓導	明治二十一年十月十八日	十六年八ケ月	
平民	町田シホ	雇	明治二十六年十月	五ケ年	裁縫科教授ニ雇入ル

全 町田ムメ 代用教員 明治三十一年十月  
全 大西頼太郎 代用教員 明治三十七年一月  
六ヶ年七ヶ月  
一年二ヶ月  
全

明治拾四年二月小樽量德學校ヲ分離シテ朝里學校ト改ム 当時現在生徒数男女共五十四名ナリキ  
明治十六年五月從來ノ小學校規則改正セラレ初等科中等科高等科トナル  
明治十九年四月七日小學校規則改正トナリ從來ノ初等中等ヲ廢シ更ニ高等科尋常科簡易科ニ改メラレ  
当校ハ又簡易小學校ニ編セラル  
明治三十六年十月校舍教室狹隘ナルヲ以テ増築ス

## 教育

明治貳拾年以來朝里役場管下錢函張碓朝里熊碓ノ四校同盟シテ學事ヲ研究シ授業上生徒ノ監督ヲ一定  
シ互ニ討論シ智識ヲ交換スル爲メニ教育談話會ヲ組織シ毎月一回集會シテ協議セリ然ルニ東方錢張ノ  
二校屢職員ノ交送アリ故ニ新陳代謝シテ議常ニ纏ラズ (上寫先生雜録)

## 虎列刺病

明治十九年(一八八六)夏、各府縣ニ虎列刺病流行セシガ、小樽入港船乗組ノ内、該病ニ罹リ死去セ  
シ者アリケレバ、豫防消毒ヲ嚴施セシカド、終ニ港民ニ感染シ次第ニ猖獗ヲ極メ、患者死者尠ナカラ  
ズ 且忍路岩内間各郡、手鹽國、札幌市街及膽振國へ蔓延セリ 當時湾内及勝納川へ患者ノ吐瀉物ヲ  
投棄シタレバ港内ノ漁獲及魚介ノ販賣ヲ禁止セリ サレド病勢漸次衰滅シケレバ九月七日此ノ禁ヲ解  
キタリ

## 火災

記述なし

郵便(朝里)

明治十八年(一八八五)朝里村ニ郵便取扱所ヲ設ク

寺院

此ノ時代ニ於テ創建ノ寺院總數三ヶ寺ニシテ皆錢函村ニ建立ス 而シテ之ヲ宗派別ニ区分セバ眞宗、曹洞宗、淨土宗ナリ 其ノ寺院建立年左ノ如シ

所在郡名	所在町村名	建立年月	寺院名	宗派	要領
小樽郡	錢函村	明治十三年九月	本樂寺	眞宗	明治十二年四月假説教場創建
		明治十六年八月	龍眼寺	曹洞宗	
		明治十九年十二月	淨土寺	淨土宗	

御巡幸

明治十四年八月三十日午後五時陛下ノ御召艦扶桑號號、小樽港ニ着シ黒田清隆、松方正義、調所廣丈等奉迎シ皇族大臣供奉ス 時ニ各艦均シク祝砲二十一ヲ発シ栈橋着御直チニ御料ノ汽車ニ召サル 諸官吏、市民、各學校教育生徒等モ亦整列奉迎シ、警部巡查道ヲ挟ミテ護衛シ手宮ノ便殿ニ着御小憩アリ 午後六時四十分汽車手宮ヲ発シ札幌ニ向フ 九月一日有栖川熾仁親王小樽港ヲ巡覽セラル 大木喬任、金井之恭等從シ、量德學校ニ金ヲ賜ヒ山田吉兵衛ニ三套銀盃ヲ賜リ、其ノ貲ヲ損テ錢函村ニ行在所及御小憩所ヲ建設シタレバナリ

明治十六年九月小松宮親王幌内炭山ノ汽車運轉開業式ニ御出輦アリ

水産物

鯡ノ漁獲八年ニヨリ豊凶増減ノアルハ免レズトハ云ヒ、往古ニ比セバ漸時減少ノ傾向アリト言フ 實

二個人ニ對シテハ減ゼンナランモ北海道全道ヲ通ジテ觀察スルトキハ決シテ減少セシニアラズ サレド小樽近岸ハ船舶ノ出入頻繁ナルト海中ニ注入スル汚水等ニヨリ鮭ノ収獲ハ維新前ニ比シテ減少セシガ如シ 即チ安政三年ヨリ元治元年ノ九ケ年平均一ヶ年ノ小樽郡鮭収獲ハ高四万〇五百五十六石餘ナルモ明治二十年ヨリ同二十八年ノ九ケ年間一年平均二万二千八百五十二石弱ニシテ一ヶ年平均一万七千〇〇石弱減少セシ割合ナリ

### 行政官廳

明治十三年（一八八〇）開廳セシ郡役所ハ小樽、高崙、忍路、余市、古平、美國、積丹ノ七郡ヲ管轄シ爾來管轄區域ニ變更ナカリシカド、明治廿四年北海道廳地理課小樽派出所ヲ新設シ前記七郡ノ土地事務、即チ明治十九年制定ノ北海道土地拂下事務ヲ處理セシガ明治二十四年八月ヨリ地理課岩内派出所ヲ廢シ岩内古平二郡ノ土地事務ハ地理課小樽派出所之ヲ管轄セリ 然レド明治二十六年三月地理課小樽派出所ヲ廢シ小樽郡役所直チニ之レヲ處辨シ岩内古平二郡ノ土地事務ハ岩内外一郡役所之ヲ掌ル事トナレリ 而シテ小樽外六郡役所ハ明治三十年十一月四日廢セラレ北海道廳小樽外六郡支廳ヲ設置セリ 又同年小樽稅務署ノ設置アリ

### 水産物ニ関スル會社

祝津共同株式會社、明治二十九年（一八九六）ニ生マレ漁業資本ヲ貸與シ漁業ノ擴張ヲ謀リ小樽集鱗株式會社、小樽生魚株式會社及ビ宮村慶吉ノ生魚販賣店、明治三十一年十一月ヨリ起リ生魚ヲ販賣スルモ、小樽魚鱗會社及ビ小樽生魚會社ハ明治二十三年ヨリ斯業ニ從事セリ 而シテ比等生魚販賣者間開業以來鹽釜及ビ青森へ毎歲鮮魚ヲ輸出ス

### 水産奨勵會

札幌ノ北水協會ハ明治二十四年（一八九五）八月二十一日ヨリ七日間北海道水産獎勵會ヲ小樽港ニ開設シ出品人員千六百〇九人、出品數六十一種二千六百三十六点、褒賞ヲ得タル者百九十人、縦覧者凡一万六千五百人ニ達シ開會中漁船ノ競争、巾着網使用、水産幻燈、演説、水産談話等ヲ催シ實業者ノ爲メニ資益セシ事尠カラズ

### 漁業規則

海産物ヲ猥リニ採取スルノ弊ハ其ノ種ヲ絶滅セシムル虞ナキニ非ラズ 故ニ其ノ弊ヲ矯ンタメ明治二十八年（一八九七）一月規則ヲ設ケ鮑ハ毎年六月一日ヨリ八月三十日迄、海鼠ハ毎年五月一日ヨリ六月十五日迄、海扇ハ毎年四月一日ヨリ六月十五日迄、北寄貝ハ毎年五月一日ヨリ七月三十日迄、石花菜ハ毎年一月一日ヨリ七月三十一日迄又鮑ハ曲尺三寸以上、海扇ハ曲尺四寸以上、北寄貝ハ曲尺三寸以上ニ達セザル大キサノ者ハ採取スルヲ禁ジ、魚場ヲ三区ニ分ケ、輪採ノ方法ヲ設ケ禁ヲ犯スモノハ拘留又ハ科料ニ處スルノ規定ヲ設ケタリ 又潜水器ヲ以テ海鼠及鮑ノ捕獲ハ明治十九年十月禁止セシガ明治二十八年十月ヨリ此ノ禁止ヲ犯ス者ハ二円以上十円以下ノ罰金ヲ科コトトナリタリ

### 病院

病院トシテハナケレド朝里村ニ寺田孫右衛門、盛生幸作移住シ以後之ヲ以テ朝熊ノ醫トハナシ居レリ而シテ張碓村ニ於テハ [以下記述なし](#)

朝里村緋収穫高及價格年別表 [記述なし](#)

## 発達時代

### 漁業組合

小樽高島漁業組合ハ明治二十五年高島ノ二字ヲ脱シ小樽漁業協同組合ト改稱セリ サレド小樽高島二郡ノ漁業組合タル事従前ノ如シ

### 精米所

明治二十四年ニ朝里村精米所ハ朝里川下流ニ設立アリ

### 農業

朝里村ハ漁業地ニシテ、農業ニ適スル上地ニ乏シトハ屢々記述セシナレドモ、シカモ農業ハ明治ノ初年以來毎歲進歩シ來リタルハ亦事實ナリ。明治二十八年漁業ノ為メ來住セシ戸數(空欄)戸、二十九年(空欄)戸ナルモ前ニ比スレバ即チ漁業ノ為メ來住セシ戸數ヨリ農業ノタメ來住セシ戸數多數ニシテ農業ニ毎歲進歩シツアルヲ知ルニ足ル

### 小樽郡朝里村耕地反別年別表

(表あるも数値の記載なし、省略した)

右表ニヨレバ明治二十七年ヨリ頻リニ墾成段別ノ増加ヲ示セリ 开(ならび)ニ北海道土地拂下規則ニヨリ成墾地ノ程度ヲ實地検査シ未墾地ハ返地セシムル規定ヲ勵行セシヨリ土地ノ被貸付人ハ其處分ヲ恐レ開墾セシタメ斯ク増加セリ 且同年小樽郡ノ官林ヲ解除シ普通貸付地ニ編入セシメタリ 亦増加セシヤ疑フヲ要セズ

## 發達時代

官林解除地ハ張碓村字ケナシ山ノ下、西ハオ子ナイ澤マデ二一十五万二千七百八十六坪、同村字ワラビタイニ於テ凡三万〇九百九十七坪及同村朝里川左岸石倉山ノ下最寄凡一万二千二百一十一坪アリ 朝里村ニ於テハ朝里川及マサリ川間ニ於テ三ヶ所其坪数概ネ三万七千五百五十九坪及マサリ川トカムイコタンノ間ニ凡五万四千坪アリ 張碓村ニハ張碓川ト禮文塚川ノ間ニ凡十万七千二百五十坪アリ 錢函村ニテハ錢函川、星置川ノ間ニ約八万九千〇九十一坪ノ解除地アリ 其總地積五十八万三千四百九十坪ナリ 蓋シ解除地積ハ概測ナレバ實測ノ結果増減アルヲ保シ難シト雖モ之ガ為ニ小樽郡ノ漁家ハ副業ヲ得、其ノ利益淺カラズ

水田ハ安政年間小樽郡張碓村ニ於ヒテ葛山幸三郎開作セシヲ嚙矢トスレド暫時ニシテ止ミ明治二十四年ニ至リ錢函村ニ於ヒテ開作ス

## 土地、水面及移民ニ関スル規則

明治三十拾年三月北海道國有未開地處分法ヲ定メ從前貸付地墾成後千坪ニツキ壹圓デ拂下ケシモ此ノ規定ニヨリ無償ニテ所有權ヲ移シ處分上不服アル場合ニハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得、貸付地ノ全部墾了セザル以前ニ於テ貸付地ノ幾分所有權ヲ有スルヲ得、且ツ貸付中ノ土地ヲ擔保ニ供スル事ヲモ得ルニ至レリ 而シテ除租期ハ從前ノ如ク墾成後二十ヶ年ニシテ地租ハ時價ノ百分ノ一ナリ 又内務省ハ明治三十一年二月訓令第一號ヲ發シ北海道ニ移住スル人民ノ汽車汽船賃ノ割引券取扱方ヲ示シ 乘客賃及荷物ノ割引行ル、ニ至リシカバ企業上至大ノ便益トナリ移住者ヲ促シ拓殖ノ進歩スルハ期シテ待ツベシ 而シテ明治三十一年一月ヨリ小樽高嶺兩郡各町並ニ奥澤村官有地及小樽港湾内公有水面ノ賣拂、貸付及水面埋立使用等ハ公益上必要アルノ外停止セリ

## 鑛山

錢函村小字湯ノ澤ノ銀鐵、朝里村奥左股ノ澤ニ於ケル金銀、張碓村字大澤小字湯ノ澤ノ鐵、錢函村字ウタシツ山ノ滿俺、銀ハ明治二十七年試掘認可トナリシモ未ダ採掘セズ 又朝里村朝里山ノ黑色硫黄ハ明治三十一年試掘認可トナリ潮見台町ニ精鍊釜ヲ据ヘ付ケ既ニ精鍊セリ

### 金融機關

小樽市街ニハ銀行及郵便局ニ於テ貯金ヲ取扱フニヨリ團體組織ノ貯金法ナキモ錢函村ニハ數種ノ團體預金法アルハ甚ダ嘉ミスベキ異例ナリ

### 出水

明治二十五年九月五日朝里村朝里川出水シ共成株式會社ノ精米場ニ於テ米八百三十俵浸水シ又ハ流失シ、家屋一戸魚油數十ダースヲ流失シトキハ家屋ノ破壞十五戸アリ 朝里川鐵橋ノ架橋モ流失シ溺死セシ婦人二名アリ 蓋シ同株式會社ハ朝里川出水ノ為數千円ノ損失ヲナセシト云フ 其ノ後堤防修築成リ爾來斯クノ如キ慘害ナキニ至レリ

明治二十七年秋ニ錢函川出水シテ二戸ノ家屋流失セリ

而シテ其ノ前日火災ノ爲七十戸焼失シ、二日間ニ水火ノ災アリケリ

明治三十一年北海道各地方ニ於テハ未曾有ノ水害ヲ被リ其ノ慘狀筆紙ニ盡シ難キ悲慘ヲ極メシハ今猶世人ノ記憶ニ存スルナラン 殊ニ当地方ノ中錢函村ニ於テハ家屋橋梁ノ流失又破損シ浸水其ノ他ノ損害アリケリ

### 植樹及苗圃

以後「漁業」までいづれも記述なし

### 教育

### 衛生

### 火災

海水浴  
水難救場（ママ）會  
消防組  
漁業

自治制時代 記述なし

保護時代ニ於ケル自治ノ端緒 記述なし

自治制ヲ布ク 記述なし

村會及議員 記述なし

部長倍長 記述なし

教育及び學事ニ關スル事柄

寺院

明治三拾五年十月 朝里村字マサリニ小樽量徳寺説教所ヲ置ク 以後期日ヲ以テ仏供ヲナストセリ

道路 記述なし

熊碓村隨道 記述なし

日露戰役ニ於ケル名譽ノ死傷者 記述なし

熊碓村

朝里村

張碓村

錢函村

漁業 記述なし

夜學舎 記述なし

愛國婦人會 記述なし

青年會 記述なし

明治三十二年ヨリ三十九年迄ノ村况 記述なし

停車場(張碓)

明治三十八(空欄)月(空欄)日ヲ以テ小樽郡朝里村大字カムヒコタンニ於ヒテ張碓停車場ヲ建設ス之レ主トシテ当地方ニ於ケル岩石運搬ノ便宜ニヨリテ設ケタルニ外ナラズ

註 朝里叢書、朝里駅物語(小林廣著)には十月八日開駅とある

字カムイコタンといわれていたところは、「湾洞(わんど)」から「崩れの先(張碓トンネル西口)」で、トンネルを

出た先はチャラセナイ。従つて停車場はチャラセナイに建設された。

チャラセナイ崖から流れ落ちる滝の意

農業 記述なし

# 大器晚成

小樽郡熊碓村

二十八番地

鶴谷和三郎

朝里叢書第九卷

朝里村史 朝里外三村沿革史

編者

鶴谷和三郎

翻刻

小樽・朝里のまちづくりの会 朝里遺産部会

小元理男 末永 通 瀧内淳子 守谷明宏

監修

朝里郷土史資料調査研究所 主宰 小林定典

発行日

平成二十二年四月一日

発行

小樽・朝里のまちづくりの会

事務局 小樽市新光四丁目一番十六号

北海道新聞中販売所内